

『銀鈴』収録俳句一覧

通し番号	雑誌・号数・頁	題目	作者	俳句	備考
1	銀鈴2-3	遠浅	衣川	水汲むや旱天の霧茄子に降る	
2	銀鈴2-3	遠浅	衣川	閑古鳥舟にて下る知らぬ国	
3	銀鈴2-3	遠浅	衣川	さすらひや月の柳のふるき道	
4	銀鈴2-3	遠浅	衣川	かち渉る川や泡吹く日の盛り	
5	銀鈴2-3	遠浅	衣川	遠浅に女も来なる夜振かな	
6	銀鈴2-3	遠浅	衣川	月を背に月待つ家や山の下	
7	銀鈴2-3	遠浅	衣川	一本の老いし柳やとてん	
8	銀鈴3-13	吹雪	梨村	魚市や人競ひの鯛一尾	
9	銀鈴3-13	吹雪	蔭村	新室や夢も円かに秋の宵	
10	銀鈴3-13	吹雪	露の子：露子	秋静か思いがけなき落葉哉（翠澗を訪ひて）	
11	銀鈴3-13	吹雪	萱村	若鮎の水底すずしき恋あらん	
12	銀鈴3-14	吹雪	紫瀾：尼川紫瀾	若鮎の君あこがれて下らんか	
13	銀鈴3-14	吹雪	紫瀾：尼川紫瀾	すきまより霰吹きこむ寒さ哉	
14	銀鈴3-14	吹雪	汐波：石橋汐波	芒散る野を枢行く夕かな	
15	銀鈴3-14	吹雪	汐波：石橋汐波	川寒き風に且つ散る芒かな	
16	銀鈴3-14	吹雪	孤叫	突喚の声をどよもす霰かな	
17	銀鈴3-14	吹雪	孤叫	遼東に征衣のままや年あらた	
18	銀鈴3-14	吹雪	孤叫	戦死者の墓標しぐるる荒野哉	
19	銀鈴3-14	吹雪	すわ湖	風呂吹の馳走も嬉し田舎家	
20	銀鈴3-14	吹雪	すわ湖	鶺鴒のなく声しげき吹雪哉	
21	銀鈴3-14	吹雪	木風：前田木風	遣羽子を取つてくれ梟回礼者	
22	銀鈴3-14	吹雪	木風：前田木風	左義長や清涼殿のあけはなれ	
23	銀鈴3-14	吹雪	木風：前田木風	初夢のさめてをかしき思ひ哉	
24	銀鈴3-14	吹雪	木風：前田木風	門松や昔ながらの士族町	
25	銀鈴3-14	吹雪	木風：前田木風	門松に名札あたらし村の医者	
26	銀鈴3-14	吹雪	木風：前田木風	大鯛に蛭子召しませ夷子講	
27	銀鈴3-14	吹雪	木風：前田木風	良き仏ばかり集まる十夜哉	

28	銀鈴3-14	吹雪	木風：前田木風	着袴の其子の顔も親の顔	
29	銀鈴3-14	吹雪	木風：前田木風	何もかも人に低せて冬籠	
30	銀鈴3-14	吹雪	木風：前田木風	一輪の茶の花さきぬ垣の隅	
31	銀鈴3-14	吹雪	木風：前田木風	茶の花の匂や寺の這入口	
32	銀鈴3-14	吹雪	木風：前田木風	渡し場に二十日の月や冬木立	
33	銀鈴3-14	吹雪	木風：前田木風	病む人の傷口如何に霜柱	
34	銀鈴3-14	吹雪	木風：前田木風	土運ぶ土手のきれ途や霜柱	
35	銀鈴3-14	吹雪	あき子：山下あき子	海苔の香に雑煮の餅を愛し晝	
36	銀鈴3-14	落穂（二葉会）	遁郷	高低の霜メートルや足の胼	
37	銀鈴3-14	落穂（二葉会）	遁郷	意気地なき僧の居眠る炬燵哉	
38	銀鈴3-14	落穂（二葉会）	硯海	昨日今日俄の寒や置きこたつ	
39	銀鈴3-14	落穂（二葉会）	硯海	昼の間も孫と白髪は炬燵哉	
40	銀鈴3-14	落穂（二葉会）	無銘	水汲みの胼みて泣きし老女哉	
41	銀鈴3-14	落穂（二葉会）	無銘	人魂の話で寒き炬燵哉	
42	銀鈴3-14	落穂（二葉会）	荻猪	顔のひび白粉つけし女かな	
43	銀鈴3-14	落穂（二葉会）	荻猪	風烈しひとりて占しこたつ哉	
44	銀鈴3-14	落穂（二葉会）	督包	胼いかに大根あらう頬かむり	
45	銀鈴3-14	落穂（二葉会）	督包	五人では都合の悪しき炬燵哉	
46	銀鈴3-14	落穂（二葉会）	魂林	貧乏や夜長に寒き冷こたつ	
47	銀鈴3-14	落穂（二葉会）	魂林	川風にひびはまかせて渡し守	
48	銀鈴3-14	落穂（二葉会）	三痴	出征の身の思はるるこたつ哉	
49	銀鈴3-14	落穂（二葉会）	三痴	日当りに猫も留守なる炬燵哉	
50	銀鈴3-14	落穂（二葉会）	三痴	洗濯にひびの噂や霜の朝	
51	銀鈴3-14	落穂（二葉会）	月村：近藤月村	胼の手を透し見上げし虚無僧哉	
52	銀鈴3-15	落穂（二葉会）	月村：近藤月村	赤胼や古手拭の納豆売	
53	銀鈴3-15	落穂（二葉会）	月村：近藤月村	戸の外は十里の寒野炬燵哉	
54	銀鈴4-9	わか草	片山蘆水	朝寒や野川にながる花の骸	
55	銀鈴4-9	わか草	木風：前田木風	納豆汁鼻を鳴らして句を得たり	
56	銀鈴4-9	わか草	木風：前田木風	更科に春待つ家や臼の音	

57	銀鈴4-9	わか草	木風：前田木風	焼鮎の串釣り下げて春寒し	
58	銀鈴4-9	わか草	木風：前田木風	焼跡に古銭を堀る余寒哉	
59	銀鈴4-9	わか草	木風：前田木風	夕雲の動かんとして雲雀かな	
60	銀鈴4-9	わか草	笑風：坂本笑風	魚棚に少し残れる白魚哉	
61	銀鈴4-9	わか草	征帆：金本征帆	白魚を煮売る小店の柳かな	
62	銀鈴4-9	わか草	征帆：金本征帆	白魚売り傘さして京の町	
63	銀鈴4-9	わか草	枯荻	白魚に木の芽も付て煮たり鳧	
64	銀鈴4-9	わか草	枯荻	白魚汁はれ衣の膝にこぼれ鳧	
65	銀鈴4-9	わか草	落村	献燈の文字（もんじ）うるはし秋祭り	
66	銀鈴4-9	わか草	落村	新年の筆麗はしき葉書哉	
67	銀鈴4-9	わか草	落村	夜三更の氷砕きて奇襲哉	
68	銀鈴4-9	わか草	郷水	水鳥も騒がざる間の奇襲哉	
69	銀鈴4-9	わか草	郷水	寒空に鐘劈けり御待夜	
70	銀鈴4-9	わか草	夢蝶生	雪洞に桜散り来る廊下哉	
71	銀鈴4-9	わか草	夢蝶生	客待の辻の俵や柳散る	
72	銀鈴4-9	わか草	一條柳雨	水仙や朝を仏師の眉白き	
73	銀鈴4-9	わか草	一條柳雨	銀盃に紅梅の譜註し鳧	
74	銀鈴4-9	わか草	一條柳雨	珠の欄に歌屑なげぬ春の水	
75	銀鈴4-9	わか草	一條柳雨	放ちぬる歌白鳩やはつ霞	
76	銀鈴4-9	わか草	一條柳雨	懸想文二つに裂けて梅薫る	
77	銀鈴4-9	桃の句（大原郡す すき会）	紫仙：しせん・土谷紫 仙	盛りとや散り初めたる桃の花	
78	銀鈴4-9	桃の句（大原郡す すき会）	擣衣	山荘に若き僧あり桃の花	
79	銀鈴4-9	桃の句（大原郡す すき会）	白桃	桃咲くや隣に遠き一つ家	
80	銀鈴4-9	桃の句（大原郡す すき会）	春郊	畑打の何を焼くらん桃の花	

81	銀鈴4-10	桃の句（大原郡すすき会）	翠蔭	日受よき山に先づ笑む緋桃哉	
82	銀鈴4-10	桃の句（大原郡すすき会）	洋州	山里や麦畑つづき桃の花	
83	銀鈴4-10	桃の句（大原郡すすき会）	暁聲	白桃や白きを愛づる小家ぶり	
84	銀鈴4-10	桃の句（大原郡すすき会）	百笑	桃咲きて老も炬燵をはなれ鳧	
85	銀鈴4-10	桃の句（大原郡すすき会）	静子	桃咲くや南の椽に鳥餌摺る	
86	銀鈴4-10	桃の句（大原郡すすき会）	蛙水	野社や鳥居続きにももの花	
87	銀鈴4-10	桃の句（大原郡すすき会）	星の子	牛の鳴く声も聞こえつ桃の花	
88	銀鈴4-10	桃の句（大原郡すすき会）	明星：山本明星	もも咲くや貝細工売る浦の家	
89	銀鈴4-10	桃の句（大原郡すすき会）	明星：山本明星	山里やさて暮おそきもも林	
90	銀鈴4-10	茶声竹色（美濃郡二葉会）	魂休	笛吹くや按摩の寒き月夜街	
91	銀鈴4-10	茶声竹色（美濃郡二葉会）	魂休	草枯や落葉のあとの留守の家	
92	銀鈴4-10	茶声竹色（美濃郡二葉会）	傾月	白梅や管公の寮神さびつ	
93	銀鈴4-10	茶声竹色（美濃郡二葉会）	三痴	齒固や食ひ残したる祖父の椀	
94	銀鈴4-10	茶声竹色（美濃郡二葉会）	三痴	つんとして改りたる御慶哉	

95	銀鈴4-10	茶声竹色（美濃郡二葉会）	荻猪	冬されて目につく岩の高さ哉	
96	銀鈴4-10	茶声竹色（美濃郡二葉会）	督包	歩哨立つ松のうしろや冬の月	
97	銀鈴4-10	茶声竹色（美濃郡二葉会）	無銘	羽子の羽に口紅薄ううつり鳧	
98	銀鈴4-10	茶声竹色（美濃郡二葉会）	月村：近藤月村	古傘の寒そうに行く時雨かな	
99	銀鈴4-10	茶声竹色（美濃郡二葉会）	月村：近藤月村	若水に星を汲み込む静か哉	
100	銀鈴4-10	茶声竹色（美濃郡二葉会）	硯海	水祝ひ庭の小砂にしどろあと	
101	銀鈴4-10	茶声竹色（美濃郡二葉会）	遁郷	にこにこと正月爺の笑顔哉	
102	銀鈴5-8	火柱（新涼会米子支部）	洲洋：立石洲洋	若草に陽炎立つや陣の跡	
103	銀鈴5-8	火柱（新涼会米子支部）	洲洋：立石洲洋	兄長けてさすがは兄よ二日灸	
104	銀鈴5-8	古雛（米子 木の葉会）	雪兎：田中雪兎	春の日を歌反古敷て眠たり鳧	
105	銀鈴5-8	古雛（米子 木の葉会）	不男	ほこりがの古雛多き長者哉	
106	銀鈴5-8	古雛（米子 木の葉会）	荻雫	雛の間に鼠の音や夜の雨	
107	銀鈴5-8	古雛（米子 木の葉会）	木風：前田木風	行く春を病●あまた捨てに鳧	●=死死+蟲
108	銀鈴5-8	古雛（米子 木の葉会）	木風：前田木風	貝寄や難波の海に唇気楼	

109	銀鈴5-8	藤（大東 すすき 会）	白桃	咲きからむ朧が小家や藤の花	
110	銀鈴5-8	藤（大東 すすき 会）	洋州	窓掛の紫にして藤の花	
111	銀鈴5-8	藤（大東 すすき 会）	百笑	藤花や仁王の顔に散り掛る	
112	銀鈴5-8	藤（大東 すすき 会）	春郊	観音の小さきみ堂や藤の花	
113	銀鈴5-8	藤（大東 すすき 会）	翠蔭	藤棚の藤紫に咲きにけり	
114	銀鈴5-8	藤（大東 すすき 会）	しせん：紫仙・土谷紫 仙	瀧壺に流れもあへず藤の花	
115	銀鈴5-8	藤（大東 すすき 会）	梨雨：内部梨雨	藤咲くや断崖に日の斜なる	
116	銀鈴5-8	藤（大東 すすき 会）	梨雨：内部梨雨	白藤や山深くして昼の月	
117	銀鈴6-11	朝風（新涼会 大 東支部）	洋洲：立石洲洋	若葉して暗くなりける小窓哉	
118	銀鈴6-11	朝風（新涼会 大 東支部）	百笑	山荘に宿かる宵やほととぎす	
119	銀鈴6-11	朝風（新涼会 大 東支部）	春郊	稚児髻のリボン床しき胡蝶哉	
120	銀鈴6-11	朝風（新涼会 大 東支部）	翠蔭	雁なくや古郷を偲ぶ露営の夜	
121	銀鈴6-11	朝風（新涼会 大 東支部）	白虎	矢飛白の児愛らしや衣更	
122	銀鈴6-12	朝風（新涼会 大 東支部）	白虎	新らしき笠四つ五つ田植かな	

123	銀鈴6-12	朝風（新涼会 大東支部）	明星：山本明星	鯉はねて柳のゆれる入江哉	
124	銀鈴6-12	朝風（新涼会 大東支部）	明星：山本明星	鳩なきて朝風清き若葉かな	
125	銀鈴6-12	朝風（新涼会 大東支部）	梨雨：内部梨雨	瀬を下る舟涼しさよ午の風	
126	銀鈴6-12	朝風（新涼会 大東支部）	梨雨：内部梨雨	若葉青葉裏葉の見ゆる嵐哉	
127	銀鈴6-12	朝風（新涼会 大東支部）	梨雨：内部梨雨	一陣の風に牡丹のゆらぎ哉	
128	銀鈴6-12	卯の花（米子偶々会）	雪兎：田中雪兎	水打つてそよ吹く風や竹の家	
129	銀鈴6-12	卯の花（米子偶々会）	素外	田螺なくや旅籠の月を欄により	
130	銀鈴6-12	卯の花（米子偶々会）	不男	幣たるる卯の花垣根水流る	
131	銀鈴6-12	卯の花（米子偶々会）	荻雫	短か夜や水の濁りし筑後川	
132	銀鈴6-12	卯の花（米子偶々会）	木風：前田木風	軒近く糺の藤の若葉かな	
133	銀鈴6-12	卯の花（米子偶々会）	木風：前田木風	あつまやの青葉若葉に隠れ鳧	
134	銀鈴6-19	夏季吟	碧葉	高楼にキオリン弾くや夏の月	
135	銀鈴6-19	夏季吟	碧葉	廃園の杜鵑花に蜂の集ひ鳧	
136	銀鈴6-19	夏季吟	清軒	廻国の箱根八里や閑古鳥	
137	銀鈴6-19	夏季吟	清軒	葉桜や將軍の馬白くして	
138	銀鈴6-19	夏季吟	木風：前田木風	蓮池に流れてせまる花藻かな	
139	銀鈴6-19	夏季吟	木風：前田木風	洗場に白き花藻や宵の雨	
140	銀鈴6-19	夏季吟	木風：前田木風	藻の花や人ものぞかぬ古き池	

141	銀鈴6-19	夏季吟	洲洋：立石洲洋	茅庵に若葉の風のそよぎ哉	
142	銀鈴6-19	夏季吟	洲洋：立石洲洋	若竹の繁るが中や批把熟す	
143	銀鈴6-19	夏季吟	洲洋：立石洲洋	横断す太平洋や夏の雲	
144	銀鈴6-19	夏季吟	洲洋：立石洲洋	陳列や五経存して風薫る	
145	銀鈴7-8		洲洋：立石洲洋	送別の俳筵開く蚊遣かな（征師兄を送る）	
146	銀鈴7-8		洲洋：立石洲洋	水浴びて輒ち昼寝したり晝	
147	銀鈴7-8		洲洋：立石洲洋	白蓮や暁の星冷やかに	
148	銀鈴8-3	異響	枯竹：内田枯竹	蠅多きチヤン町に残る暑さ哉	
149	銀鈴8-3	異響	枯竹：内田枯竹	従軍二年今年の梨も実り晝	
150	銀鈴8-3	異響	洲洋：立石洲洋	朝寒の櫛落しけり台どころ	
151	銀鈴8-3	異響	洲洋：立石洲洋	秋立つや潮の花の白う散る	
152	銀鈴8-3	異響	洲洋：立石洲洋	盗人の跡追ふ声や今朝の秋	
153	銀鈴8-3	異響	洲洋：立石洲洋	よく化ける狸囃や秋のくれ	
154	銀鈴8-7	夏五句	能火：西村能火	夕立や雷すぎて一としきり	
155	銀鈴8-7	夏五句	能火：西村能火	青簾巻くや青田の青嵐	原文総ルビ
156	銀鈴8-7	夏五句	能火：西村能火	猫の子に蚤取り遣れば眠り哉	原文総ルビ
157	銀鈴8-7	夏五句	能火：西村能火	児を寝せて小さき蚊帳をかぶせけり	原文総ルビ
158	銀鈴8-7	夏五句	能火：西村能火	行水の盥に散るや柿の花	原文総ルビ
159	銀鈴8-8	紅箋（新涼会 大東支部）	峰秋：中津峰秋	子の指の穴ふさがばや初霰	
160	銀鈴8-8	紅箋（新涼会 大東支部）	董塘	荻の露香焚く尼が机かな	
161	銀鈴8-8	紅箋（新涼会 大東支部）	百笑	荻散るや廃寺の庭に雨細し	
162	銀鈴8-8	紅箋（新涼会 大東支部）	春郊	籠の虫死んで小荻に昼の雨	
163	銀鈴8-8	紅箋（新涼会 大東支部）	翠蔭	秋晴やをち方の山近く見ゆ	

164	銀鈴8-8	紅箋（新涼会 大東支部）	洋洲	秋晴や松原通る菅の笠	
165	銀鈴8-8	紅箋（新涼会 大東支部）	白虎	草花や爰は長者の屋敷跡	
166	銀鈴8-8	紅箋（新涼会 大東支部）	沙山	朝霧や谷深く鳴く牛の声	
167	銀鈴8-8	紅箋（新涼会 大東支部）	夢蝶	荻の宿俳句たしなむ女かな	
168	銀鈴8-8	紅箋（新涼会 大東支部）	諷軒：赤城諷軒	色々の草に露おく百花園	
169	銀鈴8-8	紅箋（新涼会 大東支部）	諷軒：赤城諷軒	舶来の草花ゆかし露の玉	
170	銀鈴8-8	紅箋（新涼会 大東支部）	梨雨：内田梨雨	朝寒き野守が軒の烟かな	
171	銀鈴8-8	紅箋（新涼会 大東支部）	梨雨：内田梨雨	旅にして柿多く村通りけり	
172	銀鈴8-8	紅箋（新涼会 大東支部）	明星：山本明星	荻の原家二三軒灯の細き	
173	銀鈴8-8	紅箋（新涼会 大東支部）	明星：山本明星	雨の荻物詫び多き夕かな	
174	銀鈴8-10	秋の日（千江選）	波舎	燈しびを中に栗焼く山家哉	
175	銀鈴8-10	秋の日（千江選）	死骨	晒布す四條河原の蜻蛉かな	
176	銀鈴8-10	秋の日（千江選）	自来	更けわたる関八州や星月夜	
177	銀鈴8-10	秋の日（千江選）	波男	人寂し坂路を招く芒かな	
178	銀鈴8-10	秋の日（千江選）	翠子	放屁虫芋堀る爺の足を追ふ	
179	銀鈴8-10	秋の日（千江選）	青山	鳴子引き且つ手を鳴らす翁哉	
180	銀鈴8-10	秋の日（千江選）	静月	今年酒酔ふて端居に転び覺	
181	銀鈴8-10	秋の日（千江選）	九菊	菊白し夜明の園に老一人	
182	銀鈴8-10	秋の日（千江選）	岩泉	庭前の夕顔白し星月夜	

183	銀鈴8-10	秋の日（千江選）	木靈	先生の改良したる鳴子かな	
184	銀鈴8-10	秋の日（千江選）	花楓	夕栄や蘆の枯葉の赤蜻蛉	原文「𪛗+青」→「蜻」に修正
185	銀鈴8-10	秋の日（千江選）	万山	葉裏照る森の陽の蜻蛉かな	
186	銀鈴8-10	秋の日（千江選）	硯州	今年酒鉄漿壺にさし入れぬ	
187	銀鈴8-10	秋の日（千江選）	翡翠郎：杉浦朝武→杉浦非水か	葉を渡る蠅螂の斧や肩の上	
188	銀鈴9-5	秋五句	千江	月出でて木小屋の闇や蕎麦の花	
189	銀鈴9-5	秋五句	千江	洛に来て東西わかず揚花火	
190	銀鈴9-5	秋五句	千江	小狐の芒へ遁げる野菊かな	
191	銀鈴9-5	秋五句	千江	高札を松に立て去る百舌鳥の声	
192	銀鈴9-5	秋五句	千江	薬さして眼を閉ぢ居や今朝の秋	
193	銀鈴9-7	素風哀風（千江選）	寺南	破れ垣に山茶花淋し国分寺	
194	銀鈴9-7	素風哀風（千江選）	波舍	百舌鳥鳴くや狭霧晴たる麓道	
195	銀鈴9-7	素風哀風（千江選）	南翠	裏金の陣笠光る霰かな	
196	銀鈴9-7	素風哀風（千江選）	紅山	行秋や障子に映る鳥の影	
197	銀鈴9-7	素風哀風（千江選）	九菊	焼米や紙に捻りて帯の間	
198	銀鈴9-7	素風哀風（千江選）	花楓	古蛸で辛棒したる別れかな	
199	銀鈴9-7	素風哀風（千江選）	井鯉	飯を干す箆に夕日の落葉かな	
200	銀鈴9-7	素風哀風（千江選）	静月	夕霧や濛々として風の窓	
201	銀鈴9-7	素風哀風（千江選）	浪男	打ち開く読書の窓や星月夜	

202	銀鈴9-7	素風哀風（千江選）	崑泉	新米や扇の上につかみ	
203	銀鈴9-7	素風哀風（千江選）	木靈	柚味噌焼く今宵俳友来る頃	
204	銀鈴9-7	素風哀風（千江選）	晴江女	まざまざと落葉踏み行く野干哉	
205	銀鈴9-7	素風哀風（千江選）	死骨	菰垂れて念仏申す冬籠	
206	銀鈴9-7	素風哀風（千江選）	東岳：多田東岳	藪陰に鮑の糞の落葉かな	
207	銀鈴9-7	素風哀風（千江選）	自来	里御所の築地くえたり帰り花	
208	銀鈴9-13	俳句	洲洋：立石洲洋	今朝の春戦勝百句ものしけり	
209	銀鈴9-13	俳句	洲洋：立石洲洋	松の内我俗化して詩も成らず	
210	銀鈴9-13	俳句	洲洋：立石洲洋	元日や羽織短かき村の人	
211	銀鈴9-13	俳句	虎三郎	狼の声聞きにけり冬の山	
212	銀鈴9-13	俳句	熊市	雪の日のラムプ毀ちし小姓哉	
213	銀鈴9-13	俳句	紋三	山や水元日の曦のさしにけり	
214	銀鈴9-13	俳句	琴月	幔幕に紅葉照るなり山館	
215	銀鈴9-13	俳句	琴月	横断す汽車や枯野の遠くして	
216	銀鈴10-3	寒灰集（亀城吟社）千江選	自来	切干や東寺の塔の見ゆる軒	
217	銀鈴10-3	寒灰集（亀城吟社）千江選	自来	馬場先西側町や年の市	
218	銀鈴10-3	寒灰集（亀城吟社）千江選	南翠	歳毎に来る鴨も来て冬籠	
219	銀鈴10-3	寒灰集（亀城吟社）千江選	南翠	金燭銀燭あたり眩き火鉢かな	

220	銀鈴10-3	寒灰集（亀城吟社）千江選	東岳：多田東岳	下足札火鉢の隅にはさみけり	
221	銀鈴10-3	寒灰集（亀城吟社）千江選	東岳：多田東岳	鬼窟の入口くらき落葉かな	
222	銀鈴10-3	寒灰集（亀城吟社）千江選	嵩泉	山茶花やあたり閑なる無住寺	
223	銀鈴10-3	寒灰集（亀城吟社）千江選	嵩泉	洞院の蔀閉ぢたり木の葉散る	
224	銀鈴10-3	寒灰集（亀城吟社）千江選	清江	塵取に三杯運ぶ落葉かな	
225	銀鈴10-3	寒灰集（亀城吟社）千江選	清江	垢離堂や瀧壺涸れて木の葉散る	
226	銀鈴10-3	寒灰集（亀城吟社）千江選	死骨	煤ぬきの仏に一句小春かな	
227	銀鈴10-3	寒灰集（亀城吟社）千江選	死骨	月落ちて古城の下の大火かな	
228	銀鈴10-3	寒灰集（亀城吟社）千江選	紅山	煤掃や濠に沿ひたる干畳	
229	銀鈴10-3	寒灰集（亀城吟社）千江選	紅山	獸獵の箭を射尽して冬籠	
230	銀鈴10-3	寒灰集（亀城吟社）千江選	寺南	仰いで守護札眺む炬燵かな	
231	銀鈴10-3	寒灰集（亀城吟社）千江選	寺南	若者の恋を語るや番火鉢	
232	銀鈴10-3	寒灰集（亀城吟社）千江選	波舎	大根の軒に凍てけり星の数	
233	銀鈴10-3	寒灰集（亀城吟社）千江選	波舎	玉霰大裡荒れたる鬼瓦	
234	銀鈴10-7	雑詠	枯竹：内田枯竹	冬籠独り案ずる暮の手哉	

235	銀鈴10-7	雑詠	洲洋：立石洲洋	水仙の雲画絹にこぼれけり	
236	銀鈴10-7	雑詠	洲洋：立石洲洋	北山の雪南山の眠りかな	
237	銀鈴10-7	雑詠	洲洋：立石洲洋	銀瓶の水寒菊にそそぎけり	
238	銀鈴10-7	雑詠	松灣：千代延松灣	勅ありて画がく名馬や御代の春	
239	銀鈴10-7	雑詠	松灣：千代延松灣	沫雪やぬかづく禰宜が折烏帽子	
240	銀鈴10-7	雑詠	松灣：千代延松灣	藪入の日暮れて家にかへり晷	
241	銀鈴10-7	雑詠	松灣：千代延松灣	梅皆百木百木の梅白き	原文「梅百木」→「梅皆百木」に修正（第11号訂正文により）
242	銀鈴10-7	雑詠	松灣：千代延松灣	朧夜を女と乗りぬ伏見船	
243	銀鈴10-7	雑詠	松灣：千代延松灣	春の水梅の林へ流れけり	
244	銀鈴10-7	雑詠	松灣：千代延松灣	砂白く水碧にして梅奇なり	
245	銀鈴10-7	雑詠	松灣：千代延松灣	山に添ふ茶の木畑や梅二本	
246	銀鈴10-7	雑詠	松灣：千代延松灣	恋餅や桃咲く村の婆が店	
247	銀鈴10-7	雑詠	松灣：千代延松灣	畑打の成るべき恋もなかりけり	原文「草」→「恋」、原文「なりけり」→「なかりけり」に修正（第11号訂正文により）
248	銀鈴10-15	風光会（出雲木次）	杜月	野社の華表朽ちけり草の花	
249	銀鈴10-15	風光会（出雲木次）	螢雪	落魄の賢女が庵や草の花	
250	銀鈴10-15	風光会（出雲木次）	秋江	曾つて見ぬ草花咲くや巫女が庭	
251	銀鈴10-15	風光会（出雲木次）	映紫樓	凸凹の石のぐるりや草の花	
252	銀鈴10-15	風光会（出雲木次）	翠峰城	草の花野路の仏に手向け晷	
253	銀鈴10-15	風光会（出雲木次）	雷鳴	草花の黄に紫に秋はるる	

254	銀鈴10-15	風光会（出雲木次）	緑葉	水害の跡たがやさず草の花	
255	銀鈴10-15	風光会（出雲木次）	幽山	埋もるる古碑の当りや草の花	
256	銀鈴10-15	風光会（出雲木次）	松露	大原やつづく日和に草の花	
257	銀鈴10-15	風光会（出雲木次）	葉村	草花に脚胖の埃はたきけり	
258	銀鈴10-15	風光会（出雲木次）	神櫻	草花や鬼門に当る五歩の庭	
259	銀鈴10-15	風光会（出雲木次）	螢雪	制札も垣も朽ちけり草の花	
260	銀鈴10-15	風光会（出雲木次）	櫻月	御陵の垣のまはりや草の花	
261	銀鈴10-15	風光会（出雲木次）	神櫻	花咲ぬ名なし千草や己が秋	
262	銀鈴10-15	風光会（出雲木次）	葉村	面白の草花二三絵師が庭	
263	銀鈴10-15	風光会（出雲木次）	松声	草花の小道も行けば牧場哉	
264	銀鈴10-15	風光会（出雲木次）	羅月	閑却す児守車や草の花	
265	銀鈴10-15	風光会（出雲木次）	羅月	打つれて草の花摘む唱歌哉	
266	銀鈴10-15	微吟（新涼会松江支部）	波秋：船木波秋	二人行く湖畔を風の寒さかな	
267	銀鈴10-15	微吟（新涼会松江支部）	紫汀	柵の株に蘭など植えにけり	

268	銀鈴10-15	微吟（新涼会松江支部）	峰秋：佛丈	外椽に狐の糞や雪の寺	
269	銀鈴10-15	微吟（新涼会松江支部）	稻玉	寒声や謡稽古の戻り道	
270	銀鈴10-15	微吟（新涼会松江支部）	天泉	頭巾着て恋女房に笑はれな	
271	銀鈴10-15	微吟（新涼会松江支部）	天泉	咲くや水仙垣根に薄日を浴びし	
272	銀鈴10-16	微吟（新涼会松江支部）	如舟：福間如舟	炭売の女が曳きし小馬かな	
273	銀鈴10-16	微吟（新涼会松江支部）	如舟：福間如舟	晴れ待ちて干せる蒲団や鳥の糞	
274	銀鈴10-16	微吟（新涼会松江支部）	笑風：坂本笑風	美しき女炭売る寺の門	
275	銀鈴10-16	微吟（新涼会松江支部）	笑風：坂本笑風	冬ざれや灯もるる裏の町	
276	銀鈴10-16	微吟（新涼会松江支部）	笨堂	三径や枯れし葎に霜の花	
277	銀鈴10-16	微吟（新涼会松江支部）	笨堂	炭売や嵯峨に見知れる梅の主	
278	銀鈴10-16	微吟（新涼会松江支部）	笨堂	水仙や笥を余るこぼれ水	
279	銀鈴10-16	微吟（新涼会松江支部）	陶水	風となり雨となり遂に曇かな	
280	銀鈴10-16	微吟（新涼会松江支部）	陶水	寒垢離や鞍馬の僧の連たちて	
281	銀鈴10-16	微吟（新涼会松江支部）	陶水	縦に横に畔差参たたる冬田哉	

282	銀鈴10-16	微吟（新涼会松江支部）	洲洋：立石洲洋	柵や大門の内物静か	
283	銀鈴10-16	微吟（新涼会松江支部）	洲洋：立石洲洋	座蒲団に剣容談ず夜寒哉	
284	銀鈴10-16	微吟（新涼会松江支部）	洲洋：立石洲洋	山茶花の花にうれしき小窓哉	
285	銀鈴11-11	湖音会俳句（出雲、乃木）	陶水	梅園に病の人と語りけり	
286	銀鈴11-11	湖音会俳句（出雲、乃木）	笨堂	紅梅や竹も植ゑたる詩仙堂	
287	銀鈴11-11	湖音会俳句（出雲、乃木）	涼風	鼠出て何物かぢる余寒かな	
288	銀鈴11-11	湖音会俳句（出雲、乃木）	涼風	草摘で太郎疲れぬ三日の月	
289	銀鈴11-11	湖音会俳句（出雲、乃木）	波秋：船木波秋	余寒かなニアカ汲んで溪の間に	
290	銀鈴11-11	湖音会俳句（出雲、乃木）	峰秋：佛丈	梅を売る嵯峨の少女や京の町	
291	銀鈴11-11	湖音会俳句（出雲、乃木）	松声	摘草や左は筑波右は富士	
292	銀鈴11-11	湖音会俳句（出雲、乃木）	如舟：福間如舟	名所路は尚一里あり春霞	
293	銀鈴11-11	湖音会俳句（出雲、乃木）	笑風：坂本笑風	陽炎や物の骨ある陣の跡	
294	銀鈴11-11	湖音会俳句（出雲、乃木）	洲洋：立石洲洋	陽炎たつ草野の昼や畑を打つ	作者名「淵洋」→「洲洋」に修正 （第11号訂正文により）
295	銀鈴11-11	湖音会俳句（出雲、乃木）	洲洋：立石洲洋	木標にそほふる雨や春の旅	作者名「淵洋」→「洲洋」に修正 （第11号訂正文により）

296	銀鈴11-11	湖音会俳句（出雲、乃木）	洲洋：立石洲洋	船橋に故国の山は霞みけり	作者名「淵洋」→「洲洋」に修正 （第11号訂正文により）
297	銀鈴12-6	雛十五句	神の子	雛棚や桃を生けたる大広間	
298	銀鈴12-6	雛十五句	神の子	雛の鏡小さき灯に光り鳧	
299	銀鈴12-6	雛十五句	神の子	そよ風に雛のかざしの揺き鳧	
300	銀鈴12-6	雛十五句	神の子	古雛の笏も冠もなかり鳧	
301	銀鈴12-6	雛十五句	神の子	雛棚の小琴に散りぬ桃の花	
302	銀鈴12-6	雛十五句	神の子	金屏に灯更けけり雛まつり	
303	銀鈴12-6	雛十五句	神の子	雛まつりありし昔の忍はるる	
304	銀鈴12-6	雛十五句	神の子	練絹を十二一重の雛かな	
305	銀鈴12-6	雛十五句	神の子	御佩刀をささせ参らす雛かな	
306	銀鈴12-6	雛十五句	神の子	男雛女雛睦しさうにおはし鳧	
307	銀鈴12-6	雛十五句	神の子	帯刀を抜かんとすなる雛かな	
308	銀鈴12-6	雛十五句	神の子	古雛の苦もなく落つる御手かな	
309	銀鈴12-6	雛十五句	神の子	灯にそむく雛の頬のほてりかな	
310	銀鈴12-6	雛十五句	神の子	雛祭憐の老もまねきけり	
311	銀鈴12-6	雛十五句	神の子	束帯もゆゆしう見えぬ古雛	
312	銀鈴12-13	湖音会（出雲、乃木）	天泉	水温む門田をあさる家鴨哉	
313	銀鈴12-13	湖音会（出雲、乃木）	波秋：船木波秋	洗ひ菜の一葉流れて水温む	
314	銀鈴12-13	湖音会（出雲、乃木）	笛杖	白桃や女易者が雨の宿	
315	銀鈴12-13	湖音会（出雲、乃木）	峰秋：佛丈	麁院の欠石段や草萌ゆる	
316	銀鈴12-13	湖音会（出雲、乃木）	如舟：福間如舟	沙山に旧師が宿や桃の花	
317	銀鈴12-13	湖音会（出雲、乃木）	笑風：坂本笑風	閑吟徐歩浜の白布や水温む	

318	銀鈴12-13	湖音会（出雲、乃木）	笑風：坂本笑風	莊周を胡蝶の原に夢みけり	
319	銀鈴12-13	湖音会（出雲、乃木）	洲洋：立石洲洋	咲く桃の伏見の宿や鐘霞む	
320	銀鈴12-13	湖音会（出雲、乃木）	洲洋：立石洲洋	雪解けて水源近し信濃川	
321	銀鈴12-14	俳句	洲洋：立石洲洋	江南の柳江北の水温む	
322	銀鈴12-14	俳句	洲洋：立石洲洋	そこはかと田螺ありくや水温む	
323	銀鈴12-14	俳句	洲洋：立石洲洋	雪解や紀伊濁流の水の音	
324	銀鈴12-14	俳句	琴月	冴えかへる念珠の音や大がらん	
325	銀鈴12-14	俳句	琴月	打水の飛沫にぬるる詩集哉	
326	銀鈴13-2	春風（募集句の一） 梧月選	峰秋：佛丈	春風や明放ちたる浜館	
327	銀鈴13-2	春風（募集句の一） 梧月選	竹林坊	春風や早き百合見る麓道	
328	銀鈴13-2	春風（募集句の一） 梧月選	琴月	ほろ酔の車に眠し春の風	
329	銀鈴13-2	春風（募集句の一） 梧月選	琴月	春風やふりみだしたる洗髪	
330	銀鈴13-2	春風（募集句の一） 梧月選	尚鬼	帆を上げて船川に入る春の風	
331	銀鈴13-2	春風（募集句の一） 梧月選	尚鬼	春風に羊の髯のゆらぎけり	
332	銀鈴13-2	春風（募集句の一） 梧月選	五呑：富田五呑	春の風幣の数吹く広田かな	
333	銀鈴13-2	春風（募集句の一） 梧月選	五呑：富田五呑	磯際に舟底焼くや春の風	
334	銀鈴13-2	春風（募集句の一） 梧月選	五呑：富田五呑	高台に喇叭なるなり春の風	

335	銀鈴13-2	春風（募集句の一） 梧月選	五香：富田五香	春風や嘉儀に参ずる新袴	
336	銀鈴13-5	壺（募集句の二） 羽風選	竹林坊	日あたりの灰汁つぼに散る桜かな	
337	銀鈴13-5	壺（募集句の二） 羽風選	尚鬼	捨壺に溜りし水の温みけり	
338	銀鈴13-5	壺（募集句の二） 羽風選	美童	山吹や欠けたる壺に雨がふる	
339	銀鈴13-5	壺（募集句の二） 羽風選	五香：富田五香	壺焼の火の粉とびけり松の鉢	
340	銀鈴13-11	花 千江選	波舍	華莫座や尻おちつかぬ花の下	
341	銀鈴13-11	花 千江選	波舍	奥院の朱塗剥けたる桜かな	
342	銀鈴13-11	花 千江選	南翠	本尊は黄金仏の桜かな	
343	銀鈴13-11	花 千江選	南翠	翠簾を垂れて巻かざる桜かな	
344	銀鈴13-11	花 千江選	紅山	講人の花咲く頃を集ひけり	
345	銀鈴13-11	花 千江選	紅山	揚弓の的あざやかに桜かな	
346	銀鈴13-11	花 千江選	東岳：多田東岳	園丁の蓑に花吹く小雨かな	
347	銀鈴13-11	花 千江選	東岳：多田東岳	かしや札桜のかひによまれけり	
348	銀鈴13-12	新調	枯竹：内田枯竹	夢寒きテントの上や帰る雁	
349	銀鈴13-12	新調	枯竹：内田枯竹	湯炎や軍旗を祭る剣の先	
350	銀鈴13-12	新調	枯竹：内田枯竹	紅梅や髪を切りたる未亡人	
351	銀鈴13-12	新調	枯竹：内田枯竹	三月尽木の芽漸く胡地の春	
352	銀鈴13-12	新調	神の子	春の雨伽羅の煙の行方かな	
353	銀鈴13-12	新調	神の子	山吹の垣に傘干す日和哉	
354	銀鈴13-12	新調	神の子	出代りの仏性者が来りけり	
355	銀鈴13-12	新調	神の子	彼岸会や島へ棹さす女ぶね	
356	銀鈴13-12	新調	神の子	緋桃さく寺の垣根や白き鶴	
357	銀鈴13-12	新調	神の子	幕曳けば桜はらはら零れ鳧	
358	銀鈴13-12	新調	神の子	乳母が家の脊戸は蕃花豆の花	

359	銀鈴13-12	新調	神の子	接木する手元に呻る小蛇かな	
360	銀鈴13-13	すみれ会（出雲、杵築）	彫影	桶の輪の流れもあへず水温む	
361	銀鈴13-13	すみれ会（出雲、杵築）	彫影	そそり立つ九輪の塔や春寒し	
362	銀鈴13-13	すみれ会（出雲、杵築）	彫影	仰ぎ見る陽明門や風光る	
363	銀鈴13-13	すみれ会（出雲、杵築）	松葉：松田松葉	面会の名刺も永き日なり晝	
364	銀鈴13-13	すみれ会（出雲、杵築）	松葉：松田松葉	陽炎や石ころ多き山の寺	
365	銀鈴13-13	すみれ会（出雲、杵築）	松葉：松田松葉	蝶々とお宮詣での肩車	
366	銀鈴13-13	すみれ会（出雲、杵築）	松葉：松田松葉	春かぜや海岸筋を馬の旅	
367	銀鈴13-13	すみれ会（出雲、杵築）	松葉：松田松葉	草萌を雛走る小寺かな	
368	銀鈴13-13	湖音会（出雲、乃木）	笛杖	眼病の癒えて白桃咲きにけり	
369	銀鈴13-13	湖音会（出雲、乃木）	波秋：船木波秋	草原に凧のうなりや日暮れ晝	
370	銀鈴13-13	湖音会（出雲、乃木）	如舟：福間如舟	白桃の実を結ばざり古き株	
371	銀鈴13-13	湖音会（出雲、乃木）	峰秋：佛丈	ふらここに竹馬の武者集ひ晝	
372	銀鈴13-13	湖音会（出雲、乃木）	笑風：坂本笑風	菜の花に幟の多き野宮哉	
373	銀鈴13-13	湖音会（出雲、乃木）	洲洋：立石洲洋	池堀つて治水の策や夏隣り	

374	銀鈴13-13	湖音会（出雲、乃木）	洲洋：立石洲洋	近郊に雉子の声や夏近し	
375	銀鈴14-10	初夏晩春（千江選）	波舎	ゆく春や緋の幕たたむ女官部屋	
376	銀鈴14-10	初夏晩春（千江選）	波舎	行春や今日を七日の喪にこもる	
377	銀鈴14-10	初夏晩春（千江選）	紅山	川舟に春つくる日を下りけり	
378	銀鈴14-10	初夏晩春（千江選）	崑泉	従妹も来て一日睦じ暮の春	
379	銀鈴14-10	初夏晩春（千江選）	崑泉	腹中の吟塊春の名残かな	
380	銀鈴14-10	初夏晩春（千江選）	東岳：多田東岳	行春の杯くばる土産かな	
381	銀鈴14-10	初夏晩春（千江選）	自来	逼塞のここら行く春観じけり	
382	銀鈴14-10	初夏晩春（千江選）	自来	京の春子取りの噂にくれにけり	
383	銀鈴14-10	初夏晩春（千江選）	自来	頼母子の放落しけり暮の春	
384	銀鈴14-10	初夏晩春（千江選）	東岳：多田東岳	五月雨澮に大鮒あさりけり	
385	銀鈴14-10	初夏晩春（千江選）	東岳：多田東岳	流れ出づる霊池の鯉や五月雨	
386	銀鈴14-10	初夏晩春（千江選）	波舎	落人を渡す出水や時鳥	
387	銀鈴14-10	初夏晩春（千江選）	波舎	筏組む河原つづきや時鳥	

388	銀鈴14-10	初夏晩春（千江選）	九菊	五月雨や藪の中なる犬の白	
389	銀鈴14-10	初夏晩春（千江選）	崑泉	旅に老いし女俳優や五月雨	
390	銀鈴14-10	初夏晩春（千江選）	崑泉	五月雨や人僅かなる野辺送り	
391	銀鈴14-10	初夏晩春（千江選）	自休	五月雨大なる鯉を得たりけり	
392	銀鈴14-10	初夏晩春（千江選）	露月	明近き出城の空やほととぎす	
393	銀鈴14-11	初夏晩春（千江選）	紅山	蛾を引く蔀障子や五月雨	
394	銀鈴14-11	初夏晩春（千江選）	紅山	雨晴れて寺の灯やほととぎす	
395	銀鈴14-11	初夏晩春（千江選）	自来	さみだるる中を浜越す荷舟哉	
396	銀鈴14-11	初夏晩春（千江選）	自来	百韻の俳諧巻けり時鳥	
397	銀鈴14-11	初夏晩春（千江選）	南翠	名も知らぬ大川端や時鳥	
398	銀鈴14-11	初夏晩春（千江選）	南翠	闇中を下る船ありほととぎす	
399	銀鈴14-11	伯水会五句集（能義郡井尻）	五香：富田五香	百合白し草に晴れ行く谷の靄	
400	銀鈴14-11	伯水会五句集（能義郡井尻）	石水：山路石水	百合の花鳥横さまにとまり行く	
401	銀鈴14-11	伯水会五句集（能義郡井尻）	五香：富田五香	白百合や宵雨晴れて草の月	

402	銀鈴14-11	伯水会五句集（能義郡井尻）	雪の舎	鬼百合の咲いて姫塚荒れにけり	
403	銀鈴14-11	伯水会五句集（能義郡井尻）	二一	白百合や小雨降る夜を狐鳴く	
404	銀鈴14-11	伯水会五句集（能義郡井尻）	富城	鬼百合や草家を出づる裏戸口	
405	銀鈴14-11	伯水会五句集（能義郡井尻）	笛声	百合白き草の中ゆく小蛇かな	
406	銀鈴14-11	伯水会五句集（能義郡井尻）	杉雨	夕風や小流清き百合の花	
407	銀鈴14-11	伯水会五句集（能義郡井尻）	峰秋：佛丈	白百合や野を守る神の花かざし	
408	銀鈴14-11	伯水会五句集（能義郡井尻）	峰秋：佛丈	百合咲くや小牛の走る小芝山	
409	銀鈴14-11	水馬会（第三回互選報告）富田五吞	五吞：富田五吞	薫風や一尺の鮎膳にあり	
410	銀鈴14-11	水馬会（第三回互選報告）富田五吞	五吞：富田五吞	講中の寄進に植うる寺田哉	
411	銀鈴14-11	水馬会（第三回互選報告）富田五吞	芦仙	枇杷黄に酢倉の窓に迫りけり	
412	銀鈴14-11	水馬会（第三回互選報告）富田五吞	芦仙	雁行す田植の笠や雨斜	
413	銀鈴14-11	水馬会（第三回互選報告）富田五吞	九宇	草苺の草に隠るる夏野哉	
414	銀鈴14-11	水馬会（第三回互選報告）富田五吞	黒潮	折りて行く野ばら萎るる夏野哉	
415	銀鈴14-11	水馬会（第三回互選報告）富田五吞	二牛	唄もなく淋しき寺の田植かな	

416	銀鈴14-11	水馬会（第三回互選報告）富田五吞	花人	箒木の伏家は暮れてとぶ螢	
417	銀鈴14-11	水馬会（第三回互選報告）富田五吞	五吞：富田五吞	螢見や棹の滴袖にちる	
418	銀鈴14-11	水馬会（第三回互選報告）富田五吞	五吞：富田五吞	星闇の芦に風立つ螢かな	
419	銀鈴14-11	水馬会（第三回互選報告）富田五吞	芦仙	里境の木標古りし夏野哉	
420	銀鈴14-11	水馬会（第三回互選報告）富田五吞	柳尽	風薫る長安に酒旗みゆる哉	
421	銀鈴14-11	水馬会（第三回互選報告）富田五吞	奇岳	薫風や瀧に望みし谷の房	
422	銀鈴14-11	水馬会（第三回互選報告）富田五吞	以学	藪下や地蔵に枇杷の落礫	
423	銀鈴14-12	夏	松葉：松田松葉	老杉古松宮坂巻くや青嵐	
424	銀鈴14-12	夏	松葉：松田松葉	薫風や宮司白馬に召したまふ	
425	銀鈴14-12	夏	松葉：松田松葉	●やく麓の家や桐の花	●：印字により判読不能
426	銀鈴14-12	夏	春圃：千代延春圃・千代延松灣	簾這ふ昼の螢や五月雨	
427	銀鈴14-12	夏	春圃：千代延春圃・千代延松灣	五月雨の川を小桶の流れ鳧	
428	銀鈴14-12	夏	春圃：千代延春圃・千代延松灣	五月雨の隣に通ふ灯かな	
429	銀鈴14-12	夏	春圃：千代延春圃・千代延松灣	衣更て美人の多き小村かな	
430	銀鈴14-12	夏	春圃：千代延春圃・千代延松灣	白藤に小家の見える茶の煙	
431	銀鈴14-12	夏	五吞：富田五吞	草原に蛇鞭つや夏の月	
432	銀鈴14-12	夏	五吞：富田五吞	花桐に雨吹き晴れて夏の月	

433	銀鈴14-12	夏	五吞：富田五吞	琵琶亭に鯉の料理や夏の月（水滸伝）	
434	銀鈴14-12	夏	五吞：富田五吞	こき戻る藻刈の舟や夏の月	
435	銀鈴14-12	夏	五吞：富田五吞	田植すんで静かな門や夏の月	
436	銀鈴14-12	夏	五吞：富田五吞	明け渡る鵜川の瀬々や夏の月	
437	銀鈴15-6	蝸牛（募集句の 一）祝羽風選	一笑子：三明一笑？	子供等の放ちては取る蝸牛	
438	銀鈴15-6	蝸牛（募集句の 一）祝羽風選	美童	貧しさの軒漏る雨や蝸牛	
439	銀鈴15-6	蝸牛（募集句の 一）祝羽風選	美童	鑿冷やす清水に落ちぬかたつぶり	
440	銀鈴15-6	蝸牛（募集句の 一）祝羽風選	峰秋：佛丈	桑苳ればころげ落ちけり蝸牛	
441	銀鈴15-6	蝸牛（募集句の 一）祝羽風選	峰秋：佛丈	雨の日や蝸牛這ふ十王堂	
442	銀鈴15-6	蝸牛（募集句の 一）祝羽風選	五吞：富田五吞	悠然と富士見上ぐるや蝸牛	
443	銀鈴15-6	蝸牛（募集句の 一）祝羽風選	五吞：富田五吞	露の葉の雨に打たるや蝸牛	
444	銀鈴15-6	蝸牛（募集句の 一）祝羽風選	五吞：富田五吞	椎茸を作る朽木やかたつむり	
445	銀鈴15-9	若葉（募集句の 二）奈倉梧月選	一笑子：三明一笑？	峯つづき風吹き渡る若葉哉	
446	銀鈴15-9	若葉（募集句の 二）奈倉梧月選	峰秋：佛丈	児雀の翼かよはき若葉かな	
447	銀鈴15-9	若葉（募集句の 二）奈倉梧月選	峰秋：佛丈	雨禱る篝明るきわか葉哉	
448	銀鈴15-9	若葉（募集句の 二）奈倉梧月選	美童	若葉蔭肺病む人の歩きけり	

449	銀鈴15-9	若葉（募集句の二）奈倉梧月選	美童	若葉路微行の君に随ひぬ	
450	銀鈴15-9	若葉（募集句の二）奈倉梧月選	五吞：富田五吞	神橋を白馬牽き行く若葉哉	
451	銀鈴15-9	若葉（募集句の二）奈倉梧月選	五吞：富田五吞	町中に神の灯深き若葉かな	
452	銀鈴15-9	若葉（募集句の二）奈倉梧月選	五吞：富田五吞	若葉山温泉の旗隠見す	
453	銀鈴15-9	若葉（募集句の二）奈倉梧月選	五吞：富田五吞	抜道を若葉の中に見出しけり	
454	銀鈴15-9	若葉（募集句の二）奈倉梧月選	美童	仙童の暁歩く若葉哉	
455	銀鈴15-9	若葉（募集句の二）奈倉梧月選	奈倉梧月	馬の子の我に逃げ込む若葉哉	追吟
456	銀鈴15-10	新調	白扇	秋晴や河に沿ひたる四五の家	
457	銀鈴15-10	新調	藍雨	秋深し雲ちぎれ飛ぶ北の室	
458	銀鈴15-10	新調	藍雨	川一里小道に秋の水流る	
459	銀鈴15-10	新調	梧堂	訪ふや山門に秋の声ひびく	
460	銀鈴15-10	新調	梧堂	手を拍ては満山ゆるぐ秋晩し	
461	銀鈴15-10	新調	五吞：富田五吞	宵寒き水簾洞や夏の月	
462	銀鈴15-10	新調	五吞：富田五吞	藪の家の灯暗しや夏の月	
463	銀鈴15-10	新調	梅窓：梅原梅窓	松の葉の露に光るや夏の月	
464	銀鈴15-10	新調	梅窓：梅原梅窓	水亭に旬の競作や夏の月	
465	銀鈴15-10	新調	梅窓：梅原梅窓	病院のカーテン白し夏の月	
466	銀鈴15-10	新調	神の子	山腹に茨咲いて暑き日なり梟	
467	銀鈴15-10	新調	神の子	暫らくは看板を見る日傘哉	
468	銀鈴15-10	新調	神の子	且つ割れば雫したたる西瓜かな	
469	銀鈴15-10	新調	神の子	湖にそふ小さき宮や青すだれ	
470	銀鈴15-10	新調	神の子	繭売つて簾を買ふてかへり梟	

471	銀鈴15-10	新調	神の子	茨の花山路を土の匂ひかな	
472	銀鈴15-10	新調	神の子	四ツ角を日傘日傘と分れけり	
473	銀鈴15-10	新調	神の子	一百の朝顔涼し瀧の茶屋	
474	銀鈴16-5	百合	梅窓：梅原梅窓	白百合や下り三里の峠茶屋	表題「百合」：「百合」に修正 (目次により)
475	銀鈴16-5	百合	梅窓：梅原梅窓	姫百合も過ぎて菊咲く比丘尼寺	
476	銀鈴16-5	百合	峰秋：佛丈	百合折て友染の袖濡しけり	
477	銀鈴16-5	百合	峰秋：佛丈	白百合や峰は雨ふる麓道	
478	銀鈴16-5	百合	楚様	百合の雨編笠の人裾野行く	
479	銀鈴16-5	百合	楚様	白百合や京に育ちし女医者	
480	銀鈴16-5	百合	五吞：富田五吞	白百合や夕立晴れて草の月	
481	銀鈴16-5	百合	五吞：富田五吞	白百合や山寺寒き朝の月	
482	銀鈴16-5	百合	五吞：富田五吞	百合白し草に晴れ行く谷の靄	
483	銀鈴16-5	百合	五吞：富田五吞	百合涼し風楚々として月出たり	
484	銀鈴16-5	百合	五吞：富田五吞	白百合に寮静なる灯かな	
485	銀鈴16-5	百合	奈倉梧月	温泉（ゆ）戻りの舟に早百合の弱りかな	追吟
486	銀鈴16-8	蝙蝠（募集句の 二）羽風選	峰秋：佛丈	蝙蝠や早く灯す港口	
487	銀鈴16-8	蝙蝠（募集句の 二）羽風選	峰秋：佛丈	蝙蝠や四條五條の夜店の灯	
488	銀鈴16-8	蝙蝠（募集句の 二）羽風選	峰秋：佛丈	蝙蝠や屑買戻る裏長屋	
489	銀鈴16-8	蝙蝠（募集句の 二）羽風選	峰秋：佛丈	蝙蝠の出る怪しき祠かな	
490	銀鈴16-8	蝙蝠（募集句の 二）羽風選	楚様	蝙蝠や月下に列す十二橋	
491	銀鈴16-8	蝙蝠（募集句の 二）羽風選	楚様	蝙蝠やたちばな薫る寺の庭	

492	銀鈴16-8	蝙蝠（募集句の二）羽風選	楚様	蝙蝠や山居の庵の軒近く	
493	銀鈴16-8	蝙蝠（募集句の二）羽風選	楚様	蝙蝠や杏林暗き三日の月	
494	銀鈴16-8	蝙蝠（募集句の二）羽風選	五吞：富田五吞	花桐に蝙蝠出たり古局	
495	銀鈴16-8	蝙蝠（募集句の二）羽風選	五吞：富田五吞	蝙蝠や灯ともして着く川蒸汽	
496	銀鈴16-8	蝙蝠（募集句の二）羽風選	五吞：富田五吞	蝙蝠や夜市の車引いて行く	
497	銀鈴16-8	蝙蝠（募集句の二）羽風選	五吞：富田五吞	蝙蝠や潮満ち来る第一橋	
498	銀鈴16-8	蝙蝠（募集句の二）羽風選	五吞：富田五吞	蝙蝠や場末の旗亭灯し晁	
499	銀鈴16-8	蝙蝠（募集句の二）羽風選	梅窓：梅原梅窓	蝙蝠や荒れて久しき無住寺	
500	銀鈴16-8	蝙蝠（募集句の二）羽風選	梅窓：梅原梅窓	灯のもれる鎮守の森や蚊喰鳥	
501	銀鈴16-8	蝙蝠（募集句の二）羽風選	梅窓：梅原梅窓	蕎麦売の我家を出るや蚊喰鳥	
502	銀鈴16-8	蝙蝠（募集句の二）羽風選	梅窓：梅原梅窓	山賊の岩屋の跡や蚊喰鳥	
503	銀鈴16-8	蝙蝠（募集句の二）羽風選	梅窓：梅原梅窓	傾城の閨の灯に来る蚊喰鳥	
504	銀鈴16-8	蝙蝠（募集句の二）羽風選	五吞：富田五吞	蝙蝠や煮酒の蔵を鎖す頃	
505	銀鈴16-8	蝙蝠（募集句の二）羽風選	祝羽風	蝙蝠や自炊の煙眼に痛き	追吟

506	銀鈴16-11	秋	千鳥子：三明千鳥・千鳥	短夜のかごとがましき女哉	
507	銀鈴16-11	秋	千鳥子：三明千鳥・千鳥	客来や新酒買ふべく山を出る	
508	銀鈴16-11	秋	松葉：松田松葉	朝晴の彼岸詣や稲の風	
509	銀鈴16-11	秋	松葉：松田松葉	本堂に杖四五本や秋彼岸	
510	銀鈴16-11	秋	松葉：松田松葉	中●は国旗の立つよ秋彼岸	●：印字により判読不能
511	銀鈴16-11	秋	松葉：松田松葉	御彼岸の墓地に萩売る女哉	
512	銀鈴16-11	秋	夏山繁	秋晴や草の実のとぶ荐なり	
513	銀鈴16-11	秋	夏山繁	黄昏を菱とる舟の遙かなり	
514	銀鈴16-11	秋	夏山繁	長き夜を障子にうつる人の影	
515	銀鈴16-11	秋	夏山繁	飼猫の團団に這入る夜寒哉	
516	銀鈴16-11	秋	夏山繁	白木槿馬医の看板古りに梟	
517	銀鈴16-11	秋	夏山繁	梶の葉の露新涼の灯のうつる	
518	銀鈴16-11	秋	五吞：富田五吞	雁鳴くや夜泊の舟に芦花白し	
519	銀鈴16-11	秋	五吞：富田五吞	朝寒や草●出て行く納豆売	●：印字により判読不能
520	銀鈴16-11	秋	五吞：富田五吞	朝寒の草に生れし蜻蛉かな	
521	銀鈴16-11	秋	五吞：富田五吞	朝寒や舟の烟の草に這ふ	
522	銀鈴16-11	秋	五吞：富田五吞	朝寒の山路に赤し蕎麦の茎	
523	銀鈴16-11	秋	五吞：富田五吞	虫の鳴く河原の暗やゆの匂ひ	
524	銀鈴16-11	秋	五吞：富田五吞	虫鳴くや小野の小家の細灯	
525	銀鈴16-11	秋	五吞：富田五吞	虫鳴くや草の戸越の二日月	
526	銀鈴16-12	水馬会第四回（備前、岡山）富田五吞報	五吞：富田五吞	蓼の葉に蛭泳ぎよる沢辺哉	
527	銀鈴16-12	水馬会第四回（備前、岡山）富田五吞報	五吞：富田五吞	雷や粟津は晴れて雲の峰	

528	銀鈴16-12	水馬会第四回（備前、岡山）富田五吞報	五吞：富田五吞	夜べの雨汀の蓼を浸しけり	
529	銀鈴16-12	水馬会第四回（備前、岡山）富田五吞報	蛙仏	砂川の蓼に隠るる小蟹かな	
530	銀鈴16-12	水馬会第四回（備前、岡山）富田五吞報	蛙仏	水蓼や夜振に立ちし鳥や何	
531	銀鈴16-13	水馬会第四回（備前、岡山）富田五吞報	星宇	川蓼や染汁流す里紺屋	
532	銀鈴16-13	水馬会第四回（備前、岡山）富田五吞報	黒潮	汽車にして落雷の村通り鳧	
533	銀鈴16-13	水馬会第四回（備前、岡山）富田五吞報	梅窓：梅原梅窓	魚荷積む明石の汽車や雷のなる	
534	銀鈴16-13	水馬会第四回（備前、岡山）富田五吞報	梅窓：梅原梅窓	蟬いまだなかぬ氷室の山静か	
535	銀鈴16-13	水馬会第四回（備前、岡山）富田五吞報	星宇	遠雷や葎切来鳴く杉の奥	
536	銀鈴16-13	水馬会第四回（備前、岡山）富田五吞報	柳尽	氷室守火串の人に訪はれけり	

537	銀鈴16-13	水馬会第四回（備前、岡山）富田五吞報	楓葉	雷止んで再び声す通夜堂	
538	銀鈴16-13	水馬会第四回（備前、岡山）富田五吞報	花人	咲き残る桜を貢げ氷室守	
539	銀鈴16-13	水馬会第四回（備前、岡山）富田五吞報	芦仙	遠雷や既に雨打つ板庇	
540	銀鈴17-2	肌寒（募集句の一）梧月選	千鳥	肌寒やうちはふみたる室の闇	
541	銀鈴17-2	肌寒（募集句の一）梧月選	五吞：富田五吞	追剥に逢はで山越す肌寒き	
542	銀鈴17-2	肌寒（募集句の一）梧月選	五吞：富田五吞	駕側に肌寒顔や供の衆	
543	銀鈴17-2	肌寒（募集句の一）梧月選	五吞：富田五吞	肌寒や山駕に乗る有馬越	
544	銀鈴17-2	肌寒（募集句の一）梧月選	五吞：富田五吞	肌寒や家鴨追ひ込む水烟	
545	銀鈴17-2	肌寒（募集句の一）梧月選	藍雨	枕して肌寒き身を横へぬ	
546	銀鈴17-2	肌寒（募集句の一）梧月選	藍雨	肌寒や拮屈として客坐る	
547	銀鈴17-2	肌寒（募集句の一）梧月選	藍雨	凭れ寄る恩師の机肌寒し	
548	銀鈴17-2	肌寒（募集句の一）梧月選	藍雨	肌寒や馬乗りかかる古き駅	原文「かゆる」→「かかる」に修正
549	銀鈴17-2	肌寒（募集句の一）梧月選	奈倉梧月	肌寒や濡舟にのる朝渡し	追吟。原文総ルビ

550	銀鈴17-4	蟲（募集句の二） 羽風選	藍雨	稻扱ぐや灯に近く虫の鳴く	
551	銀鈴17-4	蟲（募集句の二） 羽風選	五吞：富田五吞	蛸垂るる草戸の闇や虫の声	
552	銀鈴17-4	蟲（募集句の二） 羽風選	五吞：富田五吞	虫鳴くや提灯消えて草の闇	
553	銀鈴17-4	蟲（募集句の二） 羽風選	五吞：富田五吞	虫鳴くや行燈暗き田の庵	
554	銀鈴17-10	つゆぐさ	珠露（美濃）	満木は凋落すなり百舌鳥の鳴く	
555	銀鈴17-10	つゆぐさ	五吞（岡山）：富田五吞	朝寒や舟の畑の草に這ふ	
556	銀鈴17-10	つゆぐさ	松葉（出雲）	西行は牛に乗りたり秋の風	
557	銀鈴17-10	つゆぐさ	潜龍庵（美濃）	簌々と木枯鳴るく薬師堂	
558	銀鈴17-10	つゆぐさ	峰秋（出雲）：佛丈	草の戸に茸吊り干す日和哉	
559	銀鈴17-10	つゆぐさ	峰秋（出雲）：佛丈	筏編む大川堤や花すすき	
560	銀鈴17-10	つゆぐさ	五吞（岡山）：富田五吞	針磨ぐや裏田の闇の落水	
561	銀鈴17-10	つゆぐさ	五吞（岡山）：富田五吞	枝川に鮒釣る人や落し水	
562	銀鈴17-10	つゆぐさ	五吞（岡山）：富田五吞	水村の灯寒し落し水	
563	銀鈴17-10	つゆぐさ	神の子（石見）	灯せば萩白けたる雨夜かな	
564	銀鈴17-10	つゆぐさ	神の子（石見）	鳴たちて野沢の芦や黄昏るる	
565	銀鈴17-10	つゆぐさ	神の子（石見）	庵に通ふ小道や萩を括りけり	
566	銀鈴17-10	つゆぐさ	神の子（石見）	ひようと放つ矢風に散るや萩の花	
567	銀鈴17-10	つゆぐさ	梅窓（岡山）：梅原梅窓	能く案山子憎まれ者の田を守る	
568	銀鈴17-10	つゆぐさ	梅窓（岡山）：梅原梅窓	山寺の輪燈暗き星月夜	

569	銀鈴17-10	つゆぐさ	梅窓（岡山）：梅原梅窓	秋風や古き土蔵の鼠穴	
570	銀鈴17-10	つゆぐさ	梅窓（岡山）：梅原梅窓	秋江を斜に渡る白き鳥	
571	銀鈴17-10	つゆぐさ	梅窓（岡山）：梅原梅窓	石垣に糸瓜の蔓や俳諧寺	
572	銀鈴17-11	伯水会（能義井尻） 唐辛五句集 八重桜氏特選	幽水	早稲の穂の出る頃青き唐辛	
573	銀鈴17-11	伯水会（能義井尻） 唐辛五句集 八重桜氏特選	幽水	茄子畑に白き花咲く唐辛	
574	銀鈴17-11	伯水会（能義井尻） 唐辛五句集 八重桜氏特選	五吞：富田五吞	藁焚いて灰に埋れし唐辛	
575	銀鈴17-11	伯水会（能義井尻） 唐辛五句集 八重桜氏特選	五吞：富田五吞	瓦積で庭の崩れや唐辛	
576	銀鈴17-11	伯水会（能義井尻） 唐辛五句集 八重桜氏特選	五吞：富田五吞	裏畑や茄子立枯れて唐辛	
577	銀鈴17-11	伯水会（能義井尻） 唐辛五句集 八重桜氏特選	鶴友	間引菜の上や三ツ四ツ唐辛	
578	銀鈴17-11	伯水会（能義井尻） 唐辛五句集 八重桜氏特選	峰秋：佛丈	熱爛に舌のしびれや唐辛	

579	銀鈴17-11	伯水会（能義井 尻）唐辛五句集 八重桜氏特選	峰秋：佛丈	畑脇や夢に隣りて唐辛	追吟
580	銀鈴17-11	伯水会（能義井 尻）日傘五句集 梧月氏特選	鉄舟	門に出て日傘の人と話し晝	
581	銀鈴17-11	伯水会（能義井 尻）日傘五句集 梧月氏特選	梅窓：梅原梅窓	日傘ふれて柘榴の花のこぼれ晝	
582	銀鈴17-11	伯水会（能義井 尻）日傘五句集 梧月氏特選	梅窓：梅原梅窓	剪り花にさしかけてある日傘哉	
583	銀鈴17-11	伯水会（能義井 尻）日傘五句集 梧月氏特選	杉雨	茶屋女絵日傘さいて通りけり	
584	銀鈴17-11	伯水会（能義井 尻）日傘五句集 梧月氏特選	杉雨	後船の絵日傘一つ目立つなり	
585	銀鈴17-11	伯水会（能義井 尻）日傘五句集 梧月氏特選	露女	玉垣を廻る日傘の女連れ	
586	銀鈴17-11	伯水会（能義井 尻）日傘五句集 梧月氏特選	露女	大仏や日傘々々の仰ぎ見る	
587	銀鈴17-11	伯水会（能義井 尻）日傘五句集 梧月氏特選	峰秋：佛丈	絵日傘やややともすれば池の端	

588	銀鈴17-11	伯水会（能義井 尻）日傘五句集 梧月氏特選	峰秋：佛丈	百度踏む日傘見ゆるや松の間	
589	銀鈴17-11	伯水会（能義井 尻）日傘五句集 梧月氏特選	翠峯城	野路を行く絵日傘に舞ふ蝶々哉	
590	銀鈴17-11	伯水会（能義井 尻）日傘五句集 梧月氏特選	雨	日傘皆たたむや一の大華表	
591	銀鈴17-11	陽炎会（岡山）富 田五吞報	五吞：富田五吞	百舌鳴くや垣に髪結ふ湯治人	
592	銀鈴17-11	陽炎会（岡山）富 田五吞報	三竿	朝戸出の露の深きに百舌の声	
593	銀鈴17-11	陽炎会（岡山）富 田五吞報	五吞：富田五吞	日の当る二階障子や百舌の声	
594	銀鈴17-11	陽炎会（岡山）富 田五吞報	五吞：富田五吞	柿盗人十戸の村を騒しぬ	
595	銀鈴17-11	陽炎会（岡山）富 田五吞報	二牛	須磨暮れて明石に月の浪枕	
596	銀鈴17-12	陽炎会（岡山）富 田五吞報	芦仙	百舌鳴くや夕日の残る庫裏の窓	
597	銀鈴17-12	陽炎会（岡山）富 田五吞報	星宇	茸狩りの一団過ぎぬ柿の村	
598	銀鈴17-12	陽炎会（岡山）富 田五吞報	梅窓：梅原梅窓	造作のすきぬ二階の月見哉	
599	銀鈴17-12	陽炎会（岡山）富 田五吞報	五吞：富田五吞	黄に染まる櫟林や百舌の声	
600	銀鈴17-12	陽炎会（岡山）富 田五吞報	五吞：富田五吞	柿の秋木曾立出づる貢馬	

601	銀鈴17-12	陽炎会（岡山）富田五吞報	旭水史	柿むいで去来を論ず一日かな	
602	銀鈴17-12	陽炎会（岡山）富田五吞報	旭水史	干柿や山麓の家皆藁屋	
603	銀鈴17-12	陽炎会（岡山）富田五吞報	芦仙	●の秋貧しき村の賑へり	●：不明字（17-12黒潮詠に同じ）
604	銀鈴17-12	陽炎会（岡山）富田五吞報	梅窓：梅原梅窓	百舌鳴いて晩鐘遅し法隆寺	
605	銀鈴17-12	陽炎会（岡山）富田五吞報	黒潮	里の子や月に催す草角力	
606	銀鈴17-12	陽炎会（岡山）富田五吞報	黒潮	番小屋に人なし●に夕照らす	●：不明字（17-12芦仙詠に同じ）
607	銀鈴18-5	梅の花	千江	板敷に鬢を干すや梅の花	
608	銀鈴18-5	梅の花	千江	解剖して帰れば寒し梅の花	
609	銀鈴18-5	梅の花	千江	藪蔭に六座の仏や梅の花	
610	銀鈴18-5	梅の花	千江	竟宴の人酔ひにけり梅に月	
611	銀鈴18-5	梅の花	千江	店浅く仏書をひさぐ梅の鉢	
612	銀鈴18-20	第五回懸賞俳句 課題南瓜 祝羽風選	峰秋：佛丈	南瓜の腸豚に与へけり	
613	銀鈴18-20	第五回懸賞俳句 課題南瓜 祝羽風選	孝平	住職は老いて南瓜を作り梟	
614	銀鈴18-20	第五回懸賞俳句 課題南瓜 祝羽風選	梅窓：梅原梅窓	南瓜煮て通夜する人に侑め梟	
615	銀鈴18-20	第五回懸賞俳句 課題南瓜 祝羽風選	五吞：富田五吞	南瓜煮て惟然と秋を惜み梟	

616	銀鈴18-20	第五回懸賞俳句 課題南瓜 祝羽風 選	五呑：富田五呑	解家の古木を積むや南瓜畑	
617	銀鈴18-20	第五回懸賞俳句 課題秋の雨 奈倉 梧月選	枯竹：内田枯竹	秋雨に木魚叩くや竹林寺	
618	銀鈴18-20	第五回懸賞俳句 課題秋の雨 奈倉 梧月選	枯竹：内田枯竹	秋雨を休む隣の鍛冶屋哉	
619	銀鈴18-20	第五回懸賞俳句 課題秋の雨 奈倉 梧月選	米成木	先考の仏事する日や秋の雨	
620	銀鈴18-20	第五回懸賞俳句 課題秋の雨 奈倉 梧月選	米成木	小屋を中に驚静まりて秋の雨	
621	銀鈴18-20	第五回懸賞俳句 課題秋の雨 奈倉 梧月選	孝平	孤児院に児のなく声や秋の雨	
622	銀鈴18-20	第五回懸賞俳句 課題秋の雨 奈倉 梧月選	孝平	秋雨や旅の終りの山の宿	
623	銀鈴18-20	第五回懸賞俳句 課題秋の雨 奈倉 梧月選	五呑：富田五呑	枝川に鰻釣る灯や秋の雨	
624	銀鈴18-20	第五回懸賞俳句 課題秋の雨 奈倉 梧月選	五呑：富田五呑	田虫鳴いて櫓田暗し秋の雨	

625	銀鈴18-20	第五回懸賞俳句 課題秋の雨 奈倉 梧月選	五呑：富田五呑	寺の裏に焚かぬ竈や秋の雨	
626	銀鈴18-20	第五回懸賞俳句 課題秋の雨 奈倉 梧月選	五呑：富田五呑	裏川に鼠棄てけり秋の雨	
627	銀鈴18-20	第五回懸賞俳句 課題秋の雨 奈倉 梧月選	五呑：富田五呑	秋雨や焚き残りたる黍の殻	
628	銀鈴18-21	第五回懸賞俳句 課題秋の雨 奈倉 梧月選	峰秋：佛丈	秋雨の巷走るや点灯夫	
629	銀鈴18-21	第五回懸賞俳句 課題秋の雨 奈倉 梧月選	峰秋：佛丈	行秋や乗れば雨漏る鄙車	
630	銀鈴18-21	第五回懸賞俳句 課題秋の雨 奈倉 梧月選	峰秋：佛丈	投げし麩に鯉浮ばぬや秋の雨	
631	銀鈴18-21	第五回懸賞俳句 課題秋の雨 奈倉 梧月選	峰秋：佛丈	牛市の果てし場末や秋の雨	
632	銀鈴18-21	第五回懸賞俳句 課題秋の雨 奈倉 梧月選	峰秋：佛丈	秋の雨新墓の四花流れけり	
633	銀鈴18-21	第五回懸賞俳句 課題秋の雨 奈倉 梧月選	五呑：富田五呑	秋雨や暮れて一度の渡舟	

634	銀鈴18-21	第五回懸賞俳句 課題秋の雨 奈倉 梧月選	梧月：奈倉梧月	墨こぼす塾の窓下や秋の雨	追吟
635	銀鈴18-21	零れ露	洗耳	初鴉宮にまたたく灯かな	
636	銀鈴18-21	零れ露	洗耳	若水や十戸の村の一つ井戸	
637	銀鈴18-21	零れ露	董月	山門の燈火見ゆる夜寒哉	
638	銀鈴18-21	零れ露	月浪	老僧は何にか案ずる枇杷の花	
639	銀鈴18-21	零れ露	月浪	霜よけの煙れる岡や冬木立	
640	銀鈴18-21	零れ露	月浪	閉門の庭をあるくや小六月	
641	銀鈴18-21	零れ露	神の子	畏こまる下男をかしき雑煮哉	
642	銀鈴18-21	零れ露	神の子	歳旦の古き国旗や貧が家	
643	銀鈴18-21	零れ露	神の子	歳旦の晴衣並べし一間哉	
644	銀鈴18-21	零れ露	神の子	磯の宮海の初日を拝み覺	
645	銀鈴18-21	零れ露	神の子	あかあかと金屏の灯や歌かるた	
646	銀鈴19-3	枯草（募集句の 一）梧月選	峰秋：佛丈	枯草や草履ふみこむ根なし水	
647	銀鈴19-3	枯草（募集句の 一）梧月選	波吞	枯草や赤き実のある鳥の糞	
648	銀鈴19-3	枯草（募集句の 一）梧月選	波吞	枯草にレール積みたる空地哉	
649	銀鈴19-3	枯草（募集句の 一）梧月選	五吞：富田五吞	枯草の垣根に赤し寒苺	
650	銀鈴19-3	枯草（募集句の 一）梧月選	五吞：富田五吞	枯草の焚火あへなし寒習	
651	銀鈴19-3	枯草（募集句の 一）梧月選	五吞：富田五吞	枯草や草戸の嫁菜芽に出づる	
652	銀鈴19-3	枯草（募集句の 一）梧月選	五吞：富田五吞	枯草や何に堀りたる穴一つ	

653	銀鈴19-3	枯草（募集句の一） 梧月選	峰秋：佛丈	枯草や昨夜葬の捨草履	
654	銀鈴19-3	枯草（募集句の一） 梧月選	梧月：奈倉梧月	枯草に箱の虫糞払ひけり	選者吟
655	銀鈴19-5	夕潮（金衣公子社）	朱絃	山一脈麓の小田に芹青し	
656	銀鈴19-5	夕潮（金衣公子社）	皎雪	綱曳を見に行く沙の小道かな	
657	銀鈴19-5	夕潮（金衣公子社）	残月	又の日も運座に暮れぬ冬籠	
658	銀鈴19-5	夕潮（金衣公子社）	瘦骨	煤掃や顔黒きもの三五人	
659	銀鈴19-5	夕潮（金衣公子社）	紅星	嫁が君あつたら物を貧りぬ	
660	銀鈴19-5	夕潮（金衣公子社）	秋堂	紅梅を活けて且見る女かな	
661	銀鈴19-5	夕潮（金衣公子社）	仁子	招かれて君が館に梅を見る	
662	銀鈴19-5	夕潮（金衣公子社）	酔穂	紅梅や長者が家の奇なる門	
663	銀鈴19-5	夕潮（金衣公子社）	けい子	小山田に雪解の水の溢れけり	
664	銀鈴19-5	夕潮（金衣公子社）	けい子	白鴿の落葉ふみ居る社かな	
665	銀鈴19-5	夕潮（金衣公子社）	韻芳	爐のはたに俳書播く夜寒哉	
666	銀鈴19-5	夕潮（金衣公子社）	韻芳	新しき電柱たてる枯野かな	

667	銀鈴19-5	夕潮（金衣公子社）	きよし	寝られぬ妻が物言ふ蒲団哉	
668	銀鈴19-5	夕潮（金衣公子社）	きよし	あふむけに本読んで居る蒲団哉	
669	銀鈴19-5	夕潮（金衣公子社）	きよし	続々と名吟が出づる蒲団哉なか	原文ママ
670	銀鈴19-5	夕潮（金衣公子社）	白星	磯少女裳裾からげて網を曳く	
671	銀鈴19-5	夕潮（金衣公子社）	白星	瘦馬の影長々と夕日哉	
672	銀鈴19-5	夕潮（金衣公子社）	白星	炭売って駄馬に乗りて帰り梟	
673	銀鈴19-5	夕潮（金衣公子社）	咲子	芹摘んで帰ればうれし友来る	
674	銀鈴19-5	夕潮（金衣公子社）	咲子	河原行く馬嘶いて時雨けり	
675	銀鈴19-5	夕潮（金衣公子社）	咲子	春雨や半日の興句を作る	
676	銀鈴19-12	雪沓（募集句の二）羽風選	峰秋：佛丈	藁沓の雪かき落す矢尻かな	
677	銀鈴19-12	雪沓（募集句の二）羽風選	峰秋：佛丈	雪沓の音珍らしく人や来し	
678	銀鈴19-12	雪沓（募集句の二）羽風選	五吞：富田五吞	雪沓や束ね掛けたる泥の足袋	
679	銀鈴19-12	雪沓（募集句の二）羽風選	五吞：富田五吞	雪沓や猪背負ひたる山男	
680	銀鈴19-12	雪沓（募集句の二）羽風選	五吞：富田五吞	雪晴れて雪沓干すや小柴垣	

681	銀鈴19-12	雪沓（募集句の二）羽風選	五吞：富田五吞	雪沓や古りて侘しき水のもれ	
682	銀鈴19-12	雪沓（募集句の二）羽風選	波舎	雪沓の鍛冶場に憩ふ飛火かな	
683	銀鈴19-12	雪沓（募集句の二）羽風選	波舎	雪沓を干せし日向や楮蒸す	
684	銀鈴19-12	雪沓（募集句の二）羽風選	波舎	雪沓を枝にかけたり梅の晴	
685	銀鈴19-12	雪沓（募集句の二）羽風選	波舎	雪沓や腰に釣りたる山刀	
686	銀鈴19-12	雑吟 梧月選	福壽庵	我恋も昔となりぬ玉子酒	
687	銀鈴19-12	雑吟 梧月選	福壽庵	寒月や鉾杉高き山の寺	
688	銀鈴19-12	雑吟 梧月選	福壽庵	枯菊や夕日冷き亭の道	
689	銀鈴19-12	雑吟 梧月選	峰秋：佛丈	棗喰つて会心の句を得たり鳧	
690	銀鈴19-12	雑吟 梧月選	峰秋：佛丈	師の湯婆借りて留主守る霜夜哉	
691	銀鈴19-12	雑吟 梧月選	峰秋：佛丈	三更の鐘聞き湯婆は冷えに鳧	
692	銀鈴19-12	雑吟 梧月選	峰秋：佛丈	洛外に無住の寺や枯柳	
693	銀鈴19-12	雑吟 梧月選	峰秋：佛丈	鉾毒のここまで及ぶ枯野哉	
694	銀鈴19-12	雑吟 梧月選	峰秋：佛丈	蟻螂や竹馬すてし草の上	
695	銀鈴19-12	雑吟 梧月選	峰秋：佛丈	蟻螂や客の脱ぎたる簑の上	
696	銀鈴19-12	伯水会五句集（出雲）峰秋報 課題牛（秋結）	峰秋：佛丈	牛に乗つて仙童薬堀りに行く	
697	銀鈴19-12	伯水会五句集（出雲）峰秋報 課題牛（秋結）	不羈	闘牛の広き矢来や秋の風	
698	銀鈴19-12	伯水会五句集（出雲）峰秋報 課題牛（秋結）	玄子	病む牛を日南に繋ぐ穂蓼哉	

699	銀鈴19-12	伯水会五句集（出雲）峰秋報 課題牛（秋結）	玄子	牛放つ御料の原や草紅葉	
700	銀鈴19-12	伯水会五句集（出雲）峰秋報 課題牛（秋結）	嘯月	夜さむさや牛の寝返る藁の音	
701	銀鈴19-12	伯水会五句集（出雲）峰秋報 課題牛（秋結）	嘯月	牛の乳搾る垣根や木槿咲く	
702	銀鈴19-12	伯水会五句集（出雲）峰秋報 課題牛（秋結）	山笑	灯して牛の顔見る夜寒かな	
703	銀鈴19-12	伯水会五句集（出雲）峰秋報 課題牛（秋結）	不弔	院の庭銀杏吹き散る牛車	
704	銀鈴19-12	伯水会五句集（出雲）峰秋報 課題牛（秋結）	不羈	牛塚やむら立つ草になく蚯蚓	
705	銀鈴19-12	伯水会五句集（出雲）峰秋報 課題牛（秋結）	峰秋・佛丈	牛すねて動かぬ朝の寒さ哉	
706	銀鈴19-12	陽炎会五句集（岡山）五吞報	五吞：富田五吞	野分して昼を閉せる草の家	
707	銀鈴19-12	陽炎会五句集（岡山）五吞報	芦仙	赤々と日の入る中を野分かな	
708	銀鈴19-12	陽炎会五句集（岡山）五吞報	霜月	夕空や野分を孕む走り雲	
709	銀鈴19-12	陽炎会五句集（岡山）五吞報	柳尽	江東に一鳥急ぐ野分かな	

710	銀鈴19-12	陽炎会五句集（岡山）五吞報	雅村	藁砧畑の野分を夜もすがら	
711	銀鈴19-12	陽炎会五句集（岡山）五吞報	村雨	隼に追はるる鳥や夕野分	
712	銀鈴19-13	陽炎会五句集（岡山）五吞報	五吞：富田五吞	夕野辺貧しき柩通りけり	
713	銀鈴19-13	陽炎会五句集（岡山）五吞報	山笑	匍匐ふて野分の橋を渡り鳧	
714	銀鈴19-13	陽炎会五句集（岡山）五吞報	旭水史	鶏頭に西日うする野分哉	
715	銀鈴19-13	陽炎会五句集（岡山）五吞報	雲桂樓	稻妻の添ふ竹藪の野分哉	
716	銀鈴19-13	陽炎会五句集（岡山）五吞報	五吞：富田五吞	野分過ぎて山下の旗亭灯し鳧	
717	銀鈴20-11	雑吟	石櫻：小川石櫻	禪寺は寂寞として冬の月	
718	銀鈴20-11	雑吟	峰秋：中津峰秋	冬早き土人の窓や落葉する	
719	銀鈴20-11	雑吟	峰秋：中津峰秋	禿山へ風がもて行く落葉哉	
720	銀鈴20-11	雑吟	峰秋：中津峰秋	肩かけの見かへる女同士かな	
721	銀鈴20-11	雑吟	峰秋：中津峰秋	家移り毛布に包む厨具哉	
722	銀鈴20-11	雑吟	峰秋：中津峰秋	白酒の酔おもしろし雛の主	
723	銀鈴20-11	雑吟	峰秋：中津峰秋	我庵は鳥の巢ほどの広さ哉	
724	銀鈴20-11	雑吟	峰秋：中津峰秋	烟毒に枯れし田麦や忘れ霜	
725	銀鈴20-11	雑吟	峰秋：中津峰秋	二の渡し三の渡しや春の川	
726	銀鈴21-11	雑吟	梅太	春雨や寸に延びたる芭蕉の芽	
727	銀鈴21-11	雑吟	仁子	三十三才礫とる間に隠れ鳧	
728	銀鈴21-11	雑吟	芳子：旭山芳子	雉鳴いて暮れ遅き山のつつじ哉	
729	銀鈴21-11	雑吟	梅泉	春雨や渡しに近き宿の昼	
730	銀鈴21-11	雑吟	梅泉	後宮に君憂うらん春の雨	
731	銀鈴21-11	雑吟	かをる：馨	葱畑中飛び飛びに土筆かな	

732	銀鈴21-11	雑吟	かをる：馨	麦畑中の小ひさき祠かな	
733	銀鈴21-12	陽炎会 五句集 (五呑報) 春の花 類の巻、出句者三 十一名	別天樓	梅散つて鶴寒げなる園生哉	
734	銀鈴21-12	陽炎会 五句集 (五呑報) 春の花 類の巻、出句者三 十一名	別天樓	蒲公英や小さき蝶の思へらく	
735	銀鈴21-12	陽炎会 五句集 (五呑報) 春の花 類の巻、出句者三 十一名	別天樓	蛇穴を出て見れば花の盛りかな	
736	銀鈴21-12	陽炎会 五句集 (五呑報) 春の花 類の巻、出句者三 十一名	別天樓	椿咲き椿散る日毎日毎かな	
737	銀鈴21-12	陽炎会 五句集 (五呑報) 春の花 類の巻、出句者三 十一名	青嵐	飛鳥倦んで還る林の落花哉	
738	銀鈴21-12	陽炎会 五句集 (五呑報) 春の花 類の巻、出句者三 十一名	青嵐	培ふて日に酔ふ妹や桜草	
739	銀鈴21-12	陽炎会 五句集 (五呑報) 春の花 類の巻、出句者三 十一名	青嵐	うとまじや猫捨る川の芹の花	

740	銀鈴21-12	陽炎会 五句集 (五呑報) 春の花 類の巻、出句者三 十一名	青嵐	菜の花や曲馬師の荷が村に入る	
741	銀鈴21-12	陽炎会 五句集 (五呑報) 春の花 類の巻、出句者三 十一名	松濤樓	瀧道や木に苔青き遅桜	
742	銀鈴21-12	陽炎会 五句集 (五呑報) 春の花 類の巻、出句者三 十一名	松濤樓	宝物の兎角怪しや花の寺	
743	銀鈴21-12	陽炎会 五句集 (五呑報) 春の花 類の巻、出句者三 十一名	松濤樓	花に来て一路尽きけり雲深し	
744	銀鈴21-12	陽炎会 五句集 (五呑報) 春の花 類の巻、出句者三 十一名	松濤樓	水の泡落花を孕み流れ来る	
745	銀鈴21-12	陽炎会 五句集 (五呑報) 春の花 類の巻、出句者三 十一名	稻青	雨降て地固まりし董かな	
746	銀鈴21-12	陽炎会 五句集 (五呑報) 春の花 類の巻、出句者三 十一名	稻青	花の土手一步下れば董かな	

747	銀鈴21-12	陽炎会 五句集 (五呑報) 春の花 類の巻、出句者三 十一名	矮松	白梅や粃殻を焼く煙這ふ	
748	銀鈴21-12	陽炎会 五句集 (五呑報) 春の花 類の巻、出句者三 十一名	魚鱗	梨花の戸に鳥司の戻る月夜哉	
749	銀鈴21-12	陽炎会 五句集 (五呑報) 春の花 類の巻、出句者三 十一名	魚鱗	紅梅や居を再びす旧草芦	
750	銀鈴21-12	陽炎会 五句集 (五呑報) 春の花 類の巻、出句者三 十一名	村雨	初雷や三月寒き花の雨	
751	銀鈴21-12	陽炎会 五句集 (五呑報) 春の花 類の巻、出句者三 十一名	近江屋	春浅き峡中の家や梅の花	
752	銀鈴21-12	陽炎会 五句集 (五呑報) 春の花 類の巻、出句者三 十一名	旭水史	雉の尾のあらわに長きつつじ哉	
753	銀鈴21-12	陽炎会 五句集 (五呑報) 春の花 類の巻、出句者三 十一名	花陸	木蓮の堅き蕾や涅槃寺	

754	銀鈴21-12	陽炎会 五句集 (五呑報) 春の花 類の巻、出句者三 十一名	不羈	花の風関所の幕の孕みけり	
755	銀鈴21-12	陽炎会 五句集 (五呑報) 春の花 類の巻、出句者三 十一名	花溪樓	梅未だ病窓終日鎖しけり	
756	銀鈴21-12	陽炎会 五句集 (五呑報) 春の花 類の巻、出句者三 十一名	峰秋：佛丈	梅咲くや妹が机上の烈婦伝	
757	銀鈴21-12	陽炎会 五句集 (五呑報) 春の花 類の巻、出句者三 十一名	峰秋：佛丈	石臼に桜さしたる山居哉	
758	銀鈴21-12	陽炎会 五句集 (五呑報) 春の花 類の巻、出句者三 十一名 幹事吟	五呑：富田五呑	住み捨てし東坡が跡や梅の花	
759	銀鈴21-12	陽炎会 五句集 (五呑報) 春の花 類の巻、出句者三 十一名 幹事吟	五呑：富田五呑	山荘の茶殻を捨つるつつじ哉	
760	銀鈴22-10	雑吟	石櫻：小川石櫻	玉盤に音して降りぬ春の雨	
761	銀鈴22-10	雑吟	東波	行く春や渡しの舟の女客	
762	銀鈴22-10	雑吟	芳子：旭山芳子	からころと下駄行く音や春の街	
763	銀鈴22-10	雑吟	芳子：旭山芳子	楯つんで出るや春の船の人	
764	銀鈴22-10	雑吟	藤朗：後藤藤朗	十善の君もおはする花見哉	

765	銀鈴22-10	雑吟	藤朗：後藤藤朗	初夏や近江の国の朝を行く	
766	銀鈴22-10	雑吟	春子	窓外に新緑の風そよぎけり	
767	銀鈴22-10	雑吟	春子	春の月病児を護る独り哉	
768	銀鈴22-10	雑吟	梅太	川添の水田に田螺多く居る	
769	銀鈴22-10	雑吟	梅太	二人して摘むうれしさや川の芹	
770	銀鈴22-10	雑吟	梅太	ほろほろと蛙なく夜の朧ろなり	
771	銀鈴22-10	雑吟	梅太	火鉢して草鉢をやく桃の家	
772	銀鈴22-10	雑吟	朝水居	瀬戸川に尻引ッからげ芹を摘む	
773	銀鈴22-10	雑吟	朝水居	芹の根に目高群れみる水田哉	
774	銀鈴22-10	雑吟	朝水居	下駄の緒の切れし騒ぎや春の雨	
775	銀鈴22-10	雑吟	朝水居	梅に遅く桃に早しや君と住む	
776	銀鈴22-10	雑吟	朝水居	藪椿風なきにほろり零れけり	
777	銀鈴23-3	春雑吟（第七回懸賞募集）羽風選	波舎	桃咲ひて麴萌え立つ日頃哉	
778	銀鈴23-3	春雑吟（第七回懸賞募集）羽風選	波舎	乞ひ見たる女具足や桃の花	
779	銀鈴23-3	春雑吟（第七回懸賞募集）羽風選	波舎	藍壺に燕の糞をいとひけり	
780	銀鈴23-3	春雑吟（第七回懸賞募集）羽風選	波舎	燕や街道かせぐ靴磨	
781	銀鈴23-3	春雑吟（第七回懸賞募集）羽風選	波舎	日輪に大風逼り唸りけり	
782	銀鈴23-3	春雑吟（第七回懸賞募集）羽風選	峰秋：佛丈	開墾の赤土畑や春の雪	
783	銀鈴23-3	春雑吟（第七回懸賞募集）羽風選	峰秋：佛丈	春寒や嵯峨の小家の竹細工	
784	銀鈴23-3	春雑吟（第七回懸賞募集）羽風選	峰秋：佛丈	春水に明日蒔く種を浸し晷	

785	銀鈴23-3	春雑吟（第七回懸賞募集）羽風選	峰秋：佛丈	写真して戻る姉妹や春の風	
786	銀鈴23-3	春雑吟（第七回懸賞募集）羽風選	五吞：富田五吞	残雪や杉に日の洩る有馬越	
787	銀鈴23-3	春雑吟（第七回懸賞募集）羽風選	五吞：富田五吞	暖かや舟に指呼する緑島	
788	銀鈴23-3	春雑吟（第七回懸賞募集）羽風選	五吞：富田五吞	朧月江尻の酒肆を叩きけり	
789	銀鈴23-3	春雑吟（第七回懸賞募集）羽風選	五吞：富田五吞	踏青や琴弾く家に雨宿り	
790	銀鈴23-3	春雑吟（第七回懸賞募集）梧月選	峰秋：佛丈	春風や羊に食はず歌反古	「選者曰、類句あり」
791	銀鈴23-3	春雑吟（第七回懸賞募集）梧月選	五吞：富田五吞	焚火して朝を耕す余寒哉	
792	銀鈴23-3	春雑吟（第七回懸賞募集）梧月選	五吞：富田五吞	恋猫や二階障子の月の前	
793	銀鈴23-4	春雑吟（第七回懸賞募集）梧月選	五吞：富田五吞	夕雲雀草津の酒肆の灯し梟	
794	銀鈴23-4	春雑吟（第七回懸賞募集）梧月選	五吞：富田五吞	残雪や日躰き谷の木挽部屋	
795	銀鈴23-4	春雑吟（第七回懸賞募集）梧月選	五吞：富田五吞	朧夜の辻に逢ひたる巨人かな	
796	銀鈴23-4	春雑吟（第七回懸賞募集）梧月選	波舎	行きちがふ雨の轍や飛ぶ燕	
797	銀鈴23-4	春雑吟（第七回懸賞募集）羽風、梧月選	峰秋：佛丈	盛砂に少し積るや春の雪	

798	銀鈴23-4	春雑吟（第七回懸賞募集）羽風、梧月選	峰秋：佛丈	淡雪や鉢に実生の五葉松	
799	銀鈴23-4	春雑吟（第七回懸賞募集）羽風、梧月選	峰秋：佛丈	大江に舟橋渡す雪解かな	
800	銀鈴23-4	春雑吟（第七回懸賞募集）羽風、梧月選	峰秋：佛丈	梅散るや妹が机上の烈婦伝	
801	銀鈴23-4	春雑吟（第七回懸賞募集）羽風、梧月選	波舎	初午や何の薬に人群るる	
802	銀鈴23-4	春雑吟（第七回懸賞募集）三坐（登賞）羽風選	五呑：富田五呑	温かや舟に指呼する緑島	
803	銀鈴23-4	春雑吟（第七回懸賞募集）三坐（登賞）羽風選	峰秋（出雲）：佛丈	大江に舟橋渡す雪解かな	
804	銀鈴23-4	春雑吟（第七回懸賞募集）三坐（登賞）羽風選	波舎	日輪に大風逼り唸りけり	
805	銀鈴23-4	春雑吟（第七回懸賞募集）三坐（登賞）梧月選	峰秋（出雲）：佛丈	大江に舟橋渡す雪解かな	
806	銀鈴23-4	春雑吟（第七回懸賞募集）三坐（登賞）梧月選	波舎	初午や何の薬に人群るる	

807	銀鈴23-4	春雑吟（第七回懸賞募集）三坐（登賞）梧月選	五吞：富田五吞	夕雲雀草津の酒肆の灯し晷	
808	銀鈴23-7	雑吟	春子	見し夢のみなつかしさよ春の雨	
809	銀鈴23-7	雑吟	波舎	曳き帰る鬼の宝や春の月	
810	銀鈴23-7	雑吟	波舎	花曇り天正頃の太鼓鳴る（玄武社頭）	
811	銀鈴23-7	雑吟	波舎	病ありて寒き端居や桜梅の花	
812	銀鈴23-7	雑吟	五吞：富田五吞	苗代に去来す比良の薄き雲	
813	銀鈴23-7	雑吟	五吞：富田五吞	豆の花抜き捨ててある水田かな	
814	銀鈴23-7	雑吟	五吞：富田五吞	豆の花春たけなはの虻の声	
815	銀鈴23-7	雑吟	五吞：富田五吞	魚市の果てて人散る柳哉	
816	銀鈴23-12	陽炎会五句集（備前岡山）春の動物の巻出句者貳拾名幹事富田五吞報	別天樓	花に夜は明けてゐるなり百千鳥	
817	銀鈴23-12	陽炎会五句集（備前岡山）春の動物の巻出句者貳拾名幹事富田五吞報	別天樓	桜散る谷間の水や初もろこ	
818	銀鈴23-12	陽炎会五句集（備前岡山）春の動物の巻出句者貳拾名幹事富田五吞報	別天樓	板敷や籠をこぼるる小蛤	
819	銀鈴23-12	陽炎会五句集（備前岡山）春の動物の巻出句者貳拾名幹事富田五吞報	別天樓	林中に五畝の畑や雉十立つ	

820	銀鈴23-12	陽炎会五句集（備前岡山）春の動物の巻出句者貳拾名幹事富田五吞報	別天樓	並びならぶ結界石や雀の子	
821	銀鈴23-12	陽炎会五句集（備前岡山）春の動物の巻出句者貳拾名幹事富田五吞報	青嵐	相對して事なき陣や雁歸る	
822	銀鈴23-12	陽炎会五句集（備前岡山）春の動物の巻出句者貳拾名幹事富田五吞報	青嵐	留守の戸に鶏鬪えり桃の下	
823	銀鈴23-12	陽炎会五句集（備前岡山）春の動物の巻出句者貳拾名幹事富田五吞報	青嵐	雲雀鳴くそこら牛耕馬耕哉	
824	銀鈴23-12	陽炎会五句集（備前岡山）春の動物の巻出句者貳拾名幹事富田五吞報	青嵐	薪割る門虻来る日来ぬ日哉	
825	銀鈴23-12	陽炎会五句集（備前岡山）春の動物の巻出句者貳拾名幹事富田五吞報	青嵐	木賃米炊ぐ流れや蛙の子	
826	銀鈴23-12	陽炎会五句集（備前岡山）春の動物の巻出句者貳拾名幹事富田五吞報	可長	杉の谷檜の谷や呼子鳥	

827	銀鈴23-12	陽炎会五句集（備前岡山）春の動物の巻出句者貳拾名幹事富田五吞報	六合	頂の雉子下りて飲む瀧の水	
828	銀鈴23-12	陽炎会五句集（備前岡山）春の動物の巻出句者貳拾名幹事富田五吞報	六合	水草の芽をふく沢や蛙の子	
829	銀鈴23-12	陽炎会五句集（備前岡山）春の動物の巻出句者貳拾名幹事富田五吞報	梧風	山吹の散る下を行く小鮎哉	
830	銀鈴23-12	陽炎会五句集（備前岡山）春の動物の巻出句者貳拾名幹事富田五吞報	不覇	亀鳴いて法座眠たき日頃哉	
831	銀鈴23-12	陽炎会五句集（備前岡山）春の動物の巻出句者貳拾名幹事富田五吞報	不覇	人妻の蚕にやつす化粧哉	
832	銀鈴23-12	陽炎会五句集（備前岡山）春の動物の巻出句者貳拾名幹事富田五吞報	不覇	仏事客皆いにし夜や鳴く蛙	
833	銀鈴23-12	陽炎会五句集（備前岡山）春の動物の巻出句者貳拾名幹事富田五吞報	草の月	捨繩に田螺群れつく小川哉	

834	銀鈴23-12	陽炎会五句集（備前岡山）春の動物の巻出句者貳拾名幹事富田五吞報	草の月	沈み居る鍋を上ぐれば田螺哉	
835	銀鈴23-12	陽炎会五句集（備前岡山）春の動物の巻出句者貳拾名幹事富田五吞報	草の月	京町の古き酒屋や燕の巢	
836	銀鈴23-12	陽炎会五句集（備前岡山）春の動物の巻出句者貳拾名幹事富田五吞報	閑山	南に飛ぶ鶯や愛后山	
837	銀鈴23-12	陽炎会五句集（備前岡山）春の動物の巻出句者貳拾名幹事富田五吞報	閑山	蚕飼ふ貧しき明の遺民哉	
838	銀鈴23-12	陽炎会五句集（備前岡山）春の動物の巻出句者貳拾名幹事富田五吞報	兆浪	桑畑や小雨濡るる雀の子	
839	銀鈴23-12	陽炎会五句集（備前岡山）春の動物の巻出句者貳拾名幹事富田五吞報	魚鱗	首半分田の波かふる蛙かな	
840	銀鈴23-12	陽炎会五句集（備前岡山）春の動物の巻出句者貳拾名幹事富田五吞報	魚鱗	もの黄く見ゆる病や虻の声	

841	銀鈴23-12	陽炎会五句集（備前岡山）春の動物の巻出句者貳拾名幹事富田五吞報	花溪樓	曇り日の温き野風や揚雲雀	
842	銀鈴23-12	陽炎会五句集（備前岡山）春の動物の巻出句者貳拾名幹事富田五吞報	花溪樓	雁帰る磯暖かし汐曇り	
843	銀鈴23-12	陽炎会五句集（備前岡山）春の動物の巻出句者貳拾名幹事富田五吞報	破鐘	落水の泡消ゆあたり柳鮠	
844	銀鈴23-12	陽炎会五句集（備前岡山）春の動物の巻出句者貳拾名幹事富田五吞報	破鐘	我池に川水引けば柳鮠	
845	銀鈴23-12	陽炎会五句集（備前岡山）春の動物の巻出句者貳拾名幹事富田五吞報	村雨	崖の草危なき花に虻の声	
846	銀鈴23-12	陽炎会五句集（備前岡山）春の動物の巻出句者貳拾名幹事富田五吞報	村雨	山腹に五畝の水田や蛙鳴く	
847	銀鈴23-12	陽炎会五句集（備前岡山）春の動物の巻出句者貳拾名幹事富田五吞報	矮松	蝶々の風に消え行く曠野哉	

848	銀鈴23-12	陽炎会五句集（備前岡山）春の動物の巻出句者貳拾名幹事富田五吞報	矮松	孕み鹿堂下に臥して暮の春	
849	銀鈴23-12	陽炎会五句集（備前岡山）春の動物の巻出句者貳拾名幹事富田五吞報	いばら	鳥交る枝垂れ柳や池の上	
850	銀鈴23-12	陽炎会五句集（備前岡山）春の動物の巻出句者貳拾名幹事富田五吞報	巽郎	鮎波みの網を振へば朽葉哉	
851	銀鈴23-12	陽炎会五句集（備前岡山）春の動物の巻出句者貳拾名幹事富田五吞報	巽郎	鶯の鳴く三月堂や春寒し	
852	銀鈴23-12	陽炎会五句集（備前岡山）春の動物の巻出句者貳拾名幹事富田五吞報 幹事吟	五吞：富田五吞	雲鳴いて菜原の雨に暮遅き	
853	銀鈴24-9	雑吟	帰山	月出でて雨後の若葉のそよぎ哉	
854	銀鈴24-9	雑吟	紫葉：服部紫葉	夏の月鬱然として城の址	
855	銀鈴24-9	雑吟	春子	白百合や垣に傘干す家二軒	
856	銀鈴24-9	雑吟	春子	卓上の卦に興尽きて昼寝かな	
857	銀鈴24-9	雑吟	藤朗：後藤藤朗	かかる夜は落武者あらん夏の月	原文「がかる」→「かかる」に修正
858	銀鈴24-9	雑吟	藤朗：後藤藤朗	馬鈴薯の雑然と光る暑さ哉	
859	銀鈴24-9	雑吟	藤朗：後藤藤朗	雲の峯扇の風に崩れけり	

860	銀鈴26-9	夏秋雑吟（集句募）羽風選	楚様	卓上のビールの泡や風薫る	
861	銀鈴26-9	夏秋雑吟（集句募）羽風選	五香：富田五香	短夜や網打ちに出る水の家	
862	銀鈴26-9	夏秋雑吟（集句募）羽風選	佛丈：峰秋・中津佛丈	やや寒き花壇に散るや秋桜	
863	銀鈴26-9	夏秋雑吟（集句募）羽風選	佛丈：峰秋・中津佛丈	山寺の晋山式や柿の秋	
864	銀鈴26-9	夏秋雑吟（集句募）羽風選	佛丈：峰秋・中津佛丈	やや寒き白雲湧くや海の果	
865	銀鈴26-9	夏秋雑吟（集句募）梧月選	嵐江	鶯や鳥屋の軒に老をなく	
866	銀鈴26-9	夏秋雑吟（集句募）梧月選	楚様	薫風や樹下石上に仙を擬す	
867	銀鈴26-9	夏秋雑吟（集句募）梧月選	五香：富田五香	短夜や鏡に向ふ旅女	
868	銀鈴26-9	夏秋雑吟（集句募）梧月選	五香：富田五香	朝浴や離亭の残花ほの見ゆる	
869	銀鈴26-10	夏秋雑吟（集句募）梧月選	五香：富田五香	残る花竹裡に足を運びけり	
870	銀鈴26-10	夏秋雑吟（集句募）梧月選	佛丈：峰秋・中津佛丈	縄曳て棧敷定めや草紅葉（村芝居）	
871	銀鈴26-10	夏秋雑吟（集句募）梧月選	佛丈：峰秋・中津佛丈	裏町や下水溢るる秋の雨	
872	銀鈴26-10	夏秋雑吟（集句募）梧月選	佛丈：峰秋・中津佛丈	馬小屋の掃かぬ戸口や秋の雨	
873	銀鈴26-10	夏秋雑吟（集句募）梧月選	佛丈：峰秋・中津佛丈	廃船に腐る錨や秋の雨	

874	銀鈴26-10	夏秋雑吟（集句募） 梧月選	雨翠	鳩吹くや我が影長き啜道	
875	銀鈴26-10	夏秋雑吟（集句募） 梧月選	雨翠	鳩を吹く顔につれなき小雨哉	
876	銀鈴26-10	夏秋雑吟（集句募） 梧月選	雨翠	兀として残暑の空の孤山かな	
877	銀鈴26-10	夏秋雑吟（集句募） 梧月選	雨翠	秋立つや寺の銀杏の梢より	
878	銀鈴26-10	夏秋雑吟（集句募） 梧月選	雨翠	門内に五歩の畑あり唐辛子	
879	銀鈴26-10	夏秋雑吟（集句募） 梧月選	雨翠	廃院や芙蓉の中に古井筒	
880	銀鈴26-10	夏秋雑吟（集句募） 梧月選	雨翠	強られてうかりける身も踊哉	
881	銀鈴26-10	夏秋雑吟（集句募） 梧月選	雨翠	世を易く住みなす老や鶏頭花	
882	銀鈴26-11	夏秋雑吟（集句募） 梧月選	雨翠	鶏頭や紅競ふ夕日影	
883	銀鈴26-11	夏秋雑吟（集句募） 梧月選	雨翠	この村の大百姓や鶏頭花	
884	銀鈴26-11	夏秋雑吟（集句募） 羽風、梧月選	楚様	若葉路一山の風吹き通る	
885	銀鈴26-11	夏秋雑吟（集句募） 羽風、梧月選	佛丈：峰秋・中津佛丈	立琴の糸やや寒き空音かな	
886	銀鈴26-11	夏秋雑吟（集句募） 羽風、梧月選	佛丈：峰秋・中津佛丈	婿入りや梨の村から柿の村	
887	銀鈴26-11	夏秋雑吟（集句募） 羽風、梧月選	佛丈：峰秋・中津佛丈	柿数多核云ひ当てて食ひ晁	

888	銀鈴26-11	夏秋雑吟（集句 募）羽風、梧月選	雨翠	長安に上る学徒や初嵐	
889	銀鈴26-11	夏秋雑吟（集句 募）羽風、梧月選	雨翠	樹に上る猫の眼や初あらし	
890	銀鈴26-11	夏秋雑吟（集句 募）羽風、梧月選	雨翠	此村の踊り上手や老いにけり	
891	銀鈴26-11	夏秋雑吟（集句 募）羽風、梧月選	五香：富田五香	風呂の湯を抜く音や町の明易き	
892	銀鈴26-11	夏秋雑吟（集句 募）羽風、梧月選	五香：富田五香	峡中の草家残花に閉したる	
893	銀鈴26-11	夏秋雑吟（集句 募）羽風、梧月選	五香：富田五香	蓬焚く僧や野寺の仏生会	
894	銀鈴26-12	夏秋雑吟（集句 募）羽風、梧月選	五香：富田五香	橋守の古きを吊りし蚊帳かな	
895	銀鈴28-23	雑吟	藤朗：後藤藤朗	冬の月森閑として犬吠ゆる	
896	銀鈴28-23	雑吟	藤朗：後藤藤朗	天平の廃寺の跡や梅の花	
897	銀鈴28-23	雑吟	藤朗：後藤藤朗	雛僧の経習ふ夜やあけがたき	
898	銀鈴28-23	雑吟	雨翠	初鶏や四隣の礎打ち止まず	
899	銀鈴28-23	雑吟	雨翠	初日影長興富士の頂きに	
900	銀鈴28-23	雑吟	雨翠	東門は既に夜明けて初鴉	
901	銀鈴28-23	雑吟	雨翠	高麗人も日語交りに御慶哉	
902	銀鈴28-23	雑吟	雨翠	松の内ある日は船に遊びけり	
903	銀鈴28-23	雑吟	雨翠	太箸や朝鮮に来て三つの児	
904	銀鈴28-23	雑吟	雨翠	妻も無事子も無事も我無事の春	
905	銀鈴29-8	雑吟	佛丈：峰秋・中津佛丈	風呂吹の冷えて詮なき朱椀哉	
906	銀鈴29-8	雑吟	佛丈：峰秋・中津佛丈	俳仏に風呂吹なんど供へけり	
907	銀鈴29-8	雑吟	佛丈：峰秋・中津佛丈	撒きたるが如き小島や群千鳥	
908	銀鈴29-8	雑吟	雨翠	寒月や蠣殻光る浜庇	
909	銀鈴29-8	雑吟	雨翠	小走りに謡ふ若衆や冬の月	

910	銀鈴29-9	雑吟	雨翠	蘆の根に潮の光りや冬の月	
911	銀鈴29-8	雑吟	雨翠	寒月や焼けたるあとの板囲ひ	
912	銀鈴29-8	雑吟	雨翠	門を入れれば石臼に冬の日あたる	
913	銀鈴29-8	雑吟	雨翠	冬の日は蘆にうすれて水さむし	
914	銀鈴29-8	雑吟	雨翠	冬の日の時雨れんとして暮る也	
915	銀鈴29-8	雑吟	雨翠	大根を引くや漁村の女勝	
916	銀鈴31-14	雑吟	雨翠	種俵浸すや花の散る夕	
917	銀鈴31-14	雑吟	雨翠	家毎に浸す俵や川一つ	
918	銀鈴31-14	雑吟	雨翠	雛の日や柳も垂れて草の家	
919	銀鈴31-14	雑吟	雨翠	恥かしき顔のほてりや桃の酒	
920	銀鈴31-14	雑吟	雨翠	片隅に老が念仏や薪能	
921	銀鈴31-14	雑吟	雨翠	薪能梅散る七日月夜かな	
922	銀鈴31-14	雑吟	雨翠	能の面けむる焚火に反けたり	
923	銀鈴31-14	雑吟	雨翠	逢はぬ恋星を見る目に冴え返る	
924	銀鈴31-14	雑吟	雨翠	冴え返る林の中の一寺かな	
925	銀鈴31-14	雑吟	雨翠	兵と放つ矢は金星に冴え返る	
926	銀鈴31-14	雑吟	雨翠	冴え返る大教正の祭詞かな	
927	銀鈴34-32	句	南風	行水や普請の石を積む所	
928	銀鈴34-32	句	南風	夏帽の十ばかり行く木立哉	
929	銀鈴34-32	句	汀雨	川狩の橋下に立てる童子哉	
930	銀鈴34-32	句	汀雨	前庭は川に出る道ラムネかな	
931	銀鈴34-32	句	鐘愁	五月雨や名もなき花の白き咲く	
932	銀鈴34-32	句	鐘愁	岩清水苔を左右に流れけり	
933	銀鈴34-32	句	鐘愁	たまたまに鳥の来て居る清水哉	
934	銀鈴35-49	雑吟	芳仙子	秋風や山門を出る行脚僧	
935	銀鈴35-49	雑吟	芳仙子	道先に燈火赤し萩の家	
936	銀鈴35-49	雑吟	芳仙子	夜祭の花火見にゆく人出哉	
937	銀鈴35-49	雑吟	芳仙子	紅葉狩り紅葉かざして帰りけり	
938	銀鈴35-49	雑吟	鐘愁	松青く砂白し残る暑さかな	

939	銀鈴35-49	雑吟	鐘愁	手紙して残暑の苦悶報じけり	
940	銀鈴35-49	雑吟	鐘愁	渋柿の木末々々に残りけり	
941	銀鈴35-49	雑吟	鐘愁	喰ひ捨てし柿に蟻付く日南かな	
942	銀鈴35-49	雑吟	鐘愁	渋柿の下草長し畑の隅	
943	銀鈴35-49	雑吟	碧帆：山本碧帆	寺に寝て厠に起る夜寒かな	
944	銀鈴35-49	雑吟	碧帆：山本碧帆	読経の鉦早めたる夜寒かな	
945	銀鈴35-50	雑吟	碧帆：山本碧帆	奪ひ合ふ花火線香や兄弟	
946	銀鈴35-50	雑吟	碧帆：山本碧帆	雨雲を厭して高き花火かな	
947	銀鈴35-50	雑吟	碧帆：山本碧帆	どよめきは花火降り来る真下哉	
948	銀鈴35-50	雑吟	郭公樓	朝霧の晴れし妙義や雲起る	
949	銀鈴35-50	雑吟	郭公樓	風荒れて鳥も渡らぬこぼれ島	
950	銀鈴35-50	雑吟	郭公樓	本尊の疎影尊し曼殊沙華	
951	銀鈴35-50	雑吟	郭公樓	初秋や我一週の喪に服す	題「羽月の母死す」
952	銀鈴35-50	雑吟	郭公樓	蕎麦の花貢の駒の育つ村	題「扇の画讃」
953	銀鈴35-50	雑吟	郭公樓	鶏頭や砂浴びて砂ふるふ鶏	題「邸公樓庵にて」
954	銀鈴35-50	雑吟	郭公樓	稻妻や酔醜酒を酌む程の闇	題「邸公樓庵にて」
955	銀鈴36終刊-14	加賀新八勝	郭公樓	紅粉をふき散らしてやむら紅葉	題「琴嶺錦楓」
956	銀鈴36終刊-14	加賀新八勝	郭公樓	朝寒や調子のたるき糸車	題「砂汀朝寒」
957	銀鈴36終刊-15	加賀新八勝	郭公樓	初風仁王の空鼻吹き通す	題「仙堂仁王」
958	銀鈴36終刊-15	加賀新八勝	郭公樓	巖断ぞ所萩白と黄と赤と	題「臥石萩花」
959	銀鈴36終刊-15	加賀新八勝	郭公樓	初汐や勝地に数ふる島と島	題「夫島妻島初汐」
960	銀鈴36終刊-15	加賀新八勝	郭公樓	名月に呼び合う船と二階かな	題「海上秋月」
961	銀鈴36終刊-15	加賀新八勝	郭公樓	伏す石の腹に千古の秋刻む	題「潜戸伏岩」
962	銀鈴36終刊-15	加賀新八勝	郭公樓	波負ふて波抱く岩の紅葉哉	題「暮海一島」
963	銀鈴36終刊-45		芳仙	大風に鳴らされて居る鳴子かな	
964	銀鈴36終刊-45		芳仙	行く秋や案山子の蓑に夕日さす	
965	銀鈴36終刊-45		芳仙	さしてある五輪の墓の野菊かな	